

官報 號外

明治三十四年一月三十日

水曜日

印刷局

第十五回 衆議院議事速記録第四號

明治三十四年一月二十九日(火曜日)午後一時九分開議

議事日程 第三號 明治三十四年一月二十九日

午後一時開議

- 一 酒造稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 三 酒精及酒精含有飲料稅法案(政府提出) 第一讀會
- 四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 五 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 七 酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 九 醫藥用、工業用酒精戻稅法案(政府提出) 第一讀會
- 十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 十一 麥酒稅法案(政府提出) 第一讀會
- 十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 十三 砂糖消費稅法案(政府提出) 第一讀會
- 十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 十五 關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 十七 印紙稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 十九 登錄稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 二十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 二十一 登錄稅法中改正法律案(木村誓太郎外一名提出) 第一讀會
- 二十二 登錄稅法中改正法律案(鹽田忠左衛門提出) 第一讀會
- 二十三 決議案(河野廣中外七名提出) 第一讀會
- 二十四 徵兵令補則法律案(菅野善右衛門提出) 第一讀會
- 二十五 所得稅法中改正法律案(木村誓太郎外二名提出) 第一讀會
- 二十六 豫算案ノ款項改正ニ關スル建議案(工藤行幹提出) 第一讀會

○議長(片岡健吉君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

政府委員左ノ通仰付ケラレタル旨伊藤內閣總理大臣ヨリ通牒アリ  
遞信省所管事務政府委員 遞信書記官 關 宗 喜君

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治三十四年度歲入歲出總豫算案中修正書

登錄稅法中改正法律案

印紙稅法中改正法律案

酒造稅法中改正法律案

酒精及酒精含有飲料稅法案

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律案

醫藥用、工業用、酒精戻稅法案

麥酒稅法案

砂糖消費稅法案

關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

徵兵令補則法律案

提出者 菅野善右衛門君

登錄稅法中改正法律案

提出者 木村誓太郎君

所得稅法中改正法律案

提出者 木村誓太郎君

登錄稅法中改正法律案

提出者 鹽田忠左衛門君

潮風被害地租特別處分法案

提出者 永井嘉六郎君

蟲害地租特別處分法案

提出者 鮫島相政君

委員長及理事左ノ通當選セラレタリ

委員長 早川 龍介君

理事 加藤 六藏君

提出者 橋元 昂君

提出者 內藤 正義君

提出者 伊達 文三君

提出者 恆松 隆慶君

提出者 多田 作兵衛君

提出者 門脇 重雄君

提出者 朝倉 親爲君

提出者 小林 乾一郎君

提出者 橫山 通英君

提出者 加藤 六藏君

水害地方田畑地租免除ニ關スル法律案外一案

委員長 藤 金 作君 理事 橋本久太郎君

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、諸君ニ御諮リヲスルコトガアリマス、齋藤和平太君ハ病氣ノタメ去ル二十一日ヨリ二週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、中禁廣太郎君ハ母病氣ノタメ、本日ヨリ二週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、栗原豫算委員長ヨリ豫算案ハ期限モアルコトデアリマスカラ、本會ノ開會時間中ニ豫算會及分科會ヲ開クコトヲ豫メ許可シテ費ヒタイト云フコトデアリマスガ、是モ許可致シマシテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、議事日程ノ第一ノ議案ノ朗讀ヲ省略シマス

○恆松隆慶君(百二十六番) 緊急ノ動議ヲ提出致シマス、私ハ此日程ノ第一ヨリ十六マデハ總テ増稅ニ關係シタ問題デゴザイマスルデ、此場合一括ヲシテ議題ニ掛ケラレテ、サウシテ當局者及其他ノ御説明ガアッタ方ガ便利ダラウト考ヘマス、先ツ以テ此一括ニナラン所ヲ望ミマスノデ……

○議長(片岡健吉君) 第一ヨリ十五マデデスカ

○恆松隆慶君(百二十六番) 第一ヨリ十六マデデゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 今恆松隆慶君ヨリ議事日程ノ第一ヨリ第十六マデヲ一括シテ、議題ニ付セラレンコトヲ望ムト云フ動議ガ出マシタガ、御異議ガアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ一括シテ議題ニ付スルコトニ致シマス

第一 酒造稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

酒造稅法中左ノ通改正ス

第一條中「酒精ノ六種トス」ヲ「五種トス」ニ改ム  
第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

- 第一種 清酒濁酒 一石ニ付 金十五圓
- 白酒味淋 一石ニ付 金十六圓
- 第二種 燒酎 一石ニ付 金十六圓

攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中純酒精ノ容量第一種ニ在リテハ二十、第二種ニ在リテハ四十ヲ超ユルモノハ前項ノ割合ニ依ラス一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ酒類ノ造石數ニ應シ造石稅ヲ課ス  
前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第五條第一項中「酒精」ヲ削ル  
第七條中「徵收スルコトヲ得」ヲ「徵收ス」此ノ場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得ニ改ム

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒母、醗又ハ酒類ヲ製造シタル者ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ直ニ造石稅ヲ賦課徵收スルコトヲ妨ケス  
第二十三條 酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十三條ノ二 免許ヲ受ケスシテ酒母、醗ヲ製造シタル者又ハ第二十一條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル酒母、醗ノ總石數ニ對シ造石稅ヲ課ス  
前項ノ造石稅ハ第六條ノ納期ニ依ラス直ニ之ヲ納ムヘシ  
第二十三條ノ三 削除

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

第三 酒精及酒精含有飲料稅法案(政府提出) 第一讀會

酒精及酒精含有飲料稅法案  
酒精及酒精含有飲料稅法

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

附則  
本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ舊稅率ヲ適用ス

第三 酒精及酒精含有飲料稅法案(政府提出) 第一讀會

酒精及酒精含有飲料稅法案  
酒精及酒精含有飲料稅法

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

第一條 酒精及酒精含有飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス  
第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金十六圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス  
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス  
第四條 精酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)及葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ニハ本法ヲ適用セス  
第五條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第六條 造石稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス  
第七條 造石稅ヲ納ムヘキ者造石稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セムトスルノ所爲アリ

リト認ムルトキハ政府ハ直ニ造石税ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ納税ノ擔保トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差フルコトヲ得

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルカ爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニハ造石税ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 製造石數ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成シタル時實測シ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就キ製造石數ヲ査定シ造石税ヲ課ス

第十條 第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石數トシ造石税ヲ課ス

一 他人ニ讓渡サレタルトキ

二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラレタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹リ亡失シタルトキハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收税官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石税三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石税三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石税三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者其ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者ヲ處罰ス

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ製造ヲ廢止シタル者及ヒ其ノ相續人ハ造石税完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

附則

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日以前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用ス

第二十七條 本法若ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ臺灣ニ施行スルマテハ臺灣ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第五 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ其ノ石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ課ス

第一種 清酒、濁酒	一石ニ付	金十五圓
第二種 燒酎	一石ニ付	金十六圓

攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中純酒精ノ容量第一種ニ在リテハ二十、第二種ニ在リテハ四十ヲ超ユルモノハ前項ノ割合ニ依ラス一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金七十五錢ノ割合ヲ以テ酒類ノ石數ニ應シ出港稅ヲ課ス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七

官報號外 明治三十四年一月二十日 衆議院議事速記錄第四號 沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案 第一讀會

ノ比重ヲ有スル酒精トス

附則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七 酒精、酒類其他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻 第一讀會

金ニ關スル法律案(政府提出)

酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律案

第一條 帝國内ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料

ヲ外國ニ輸出シタル者ハ左ノ割合ニ依リ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコ

トヲ得但シ葡萄酒實ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ハ此ノ限ニ在ラス

一 清酒、濁酒、白酒、味淋 一石ニ付 金十五圓

一 燒酎 一石ニ付 金十六圓

一 麥酒(ビール) 一石ニ付 金七圓

一 酒精ヲ含有スル飲料ニシテ前各號ニ掲ケサルモノ及酒精 一石ニ付 原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ 金七十五錢

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ

添附シ之ヲ輸出港稅關ニ提出スルコトヲ要ス

一 製造場所轄稅務署ノ交付シタル納稅濟證明書

二 輸出免狀

三 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證ス

ヘキ書類

第三條 納稅濟ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出

シタル者ハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ以テ

前條納稅濟證明書ニ代フルコトヲ得

附則

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後製造シタル酒精

又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ之ヲ適用ス

第五條 明治二十一年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ

製造シタル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ニ關シテハ仍該勅令

ヲ適用ス

第九 醫藥用、工業用酒精稅法案(政府提出) 第二讀會

醫藥用、工業用酒精稅法案

醫藥用、工業用酒精稅法

第一條 造石稅若ハ輸入稅納付濟ノ酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者ハ

政府ノ承認ヲ得テ每回一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限り其ノ納付シ

タル造石稅若ハ輸入稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 酒類又ハ其ノ他ノ飲料製造用ニ供スル酒精ニハ前條ヲ適用セス

附則

第三條 第一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ造石稅又

ハ輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後造石稅又ハ輸入

稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ニ之ヲ適用ス

第五條 明治三十一年法律第二十七號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ

造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ稅金下戻ニ關シテハ仍該法ヲ

第十一 麥酒稅法案(政府提出) 第一讀會

麥酒稅法

麥酒稅法

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス

第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘ

シ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金七圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥

酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

第四條 麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘ

シ但シ製造ヲ廢止シタルトキハ即納トス

第五條 麥酒ヲ製造スル者麥酒稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫セムトスルノ所爲アリ

ト認ムルトキハ政府ハ直ニ麥酒稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收ス此ノ場合ニ於

テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得

第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證

憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條 侵害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコト

ヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡

シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 麥酒ヲ製造スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實

ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳

簿書類及麥酒製造上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又

ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅三倍ニ相當

スル罰金ニ處ス但シ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十二條 麥酒ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ

查定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ二十圓以下ルコトヲ得ス

第十三條 麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓以下ルコトヲ得ス

第十四條 麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 麥酒ヲ製造スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 麥酒ヲ製造スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 麥酒ヲ製造スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者ヲ處罰ス

第二十條 麥酒製造ヲ廢止シタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

第十三 砂糖消費稅法案(政府提出)

第一讀會

砂糖消費稅法案

第二十一條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

第一條 内地消費ノ目的ヲ以テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ  
第一種 砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖 百斤ニ付金一圓  
及糖蜜  
第二種 砂糖色相和蘭標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖 百斤ニ付金一圓六十錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水 百斤ニ付金二圓二十錢

第四種 砂糖及水砂糖 百斤ニ付金二圓八十錢

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス

第五條 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ返付ス

第六條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ノ承認ヲ得消費稅ヲ課セラレタル砂糖又ハ糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタル者ハ原料トシタル砂糖又ハ糖蜜ノ消費稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓以下ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ

又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附則

第十八條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以內ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

第十五 關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案(政府提出) 第一讀會

關稅定率法及同法附屬輸入稅表中改正法律案

第一條第二項 削除

輸入稅表中左ノ通改正ス

第三欄中「從價稅率」ヲ「從價及從量稅率」ニ改ム

- 六 九 酒精(アルコール) 每リートル四拾錢
- 二七八 石油 每ガロン參錢貳厘

- 甲 罐入ノモノ 同 貳錢
- 乙 罐入ニアラサルモノ 同 貳錢

- 三七九 卷煙草及小卷煙草 一五、〇
- 三八〇 紙卷煙草 一五、〇
- 三八一 嗅煙草 一五、〇
- 三八二 刻煙草 一五、〇
- 三八四 其ノ他諸製煙草 一五、〇
- 三八五 麥酒及黑麥酒 每リートル拾錢四厘
- 三八六 削除
- 三八八 支那酒(釀造シタルモノ) 一〇、〇
- 三八九 削除
- 三九〇 削除
- 三九二 削除
- 三九三 清酒 一〇、〇
- 三九六 削除

三九八 削除 每リートル貳拾七錢五厘

三九九 其ノ他各種ノ酒類 但シ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量五十以上一ヲ増ス每二十「リートル」ニ付四錢ヲ加フ

附則

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(片岡健吉君) 渡邊大臣

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 本日ハ内閣總理大臣ガ出席セラル、管デアリマシタガ、都合ニ依テ延期ニナリマシテゴザイマスカラ、イッレ他日出席セラレテ、施政ノ大體ノ方針、内外ノ情勢、若クハ此豫算案稅法案等ノコトニ附イテ國家大體ノコトカラ申述ベルコトデアリマセウト考ヘラレマスガ、本日ハ既ニ議案モ日程ニ上テ居リマスシ、且ツ過日明治三十四年度ノ豫算案ヲ提出致シテ置キマシタカラ、本大臣ハ彼ノ豫算案及各種ノ稅法案ヲ諸君ニ御紹介ヲ致シマス、就キマシテハ豫算案ニ附イテ大體ニ一言致シ、又增稅案提出ノ必要ナルコトヲ簡短ニ申述ベル積リデアリマス、第一ニ明治三十四年度ノ歲入歲出ノ豫算ニ掲ゲテアリマスノハ、諸君ノ御手許ニ同テアリマスカラ、御覽ノ通歲入總額ガ二億五千五百餘萬圓歲出總額ガ二億五千二百餘萬圓ト云フコトニナツテ居リマス、此中ノ重ナル建設事業ハ、添ヘテアリマスル所ノ歲入歲出總豫算案ノ說明書ニ、ツレツレノ列舉シテアリマス、又ツレヨリ下ツタル款項ノ増減ノ事由ハ、是レ亦添ヘテアル所ノ各省經費要求書ニアリマスルカラ、再ヒ茲ニ之ヲ列舉シテ數字ヲ舉ゲルノ必要ガナイノミナラス、目下本院ノ豫算委員會デ審査中デアリマスカラ、不日ニ審査ヲ終ツテ此議場ニ報告セラル、デアラウト存ジマスカラ、是ハ總テ略シマシテ、唯十分慎重ナル審査ヲ遂ゲラレンコトヲ希望致シテ置キマス、又今回提出致シマシタ各種ノ稅法案ニ就イテ、増加スル稅額ハ千八百二十餘萬圓デアリマス、稅ノ種類ヲ申シマスルト、酒、砂糖、ソルト海關稅ノ三ツニナリマス、此稅法案ヲ提出セネバナラヌ理由ハ、添ヘテアリマスル理由書ニ書イテアリマスル通、此西鄰ナル清國ニ起ツタ現在ノ不幸ナル事變ニ附イテ其軍費ヲ支辨スルト云フコトガ一ツ、而シテ將來ニ於テハ必要ニ應ジテ或ハ募債ニ替ヘ、或ハ他ノ事項ニ附イテ缺クベカラザル事項ノ財源ニ充テルト云フ目的ニナツテ居リマス、之ヲ重ニ消費稅ニ取リマシタノハ、今日ノ場合ニ於テ先ヅ消費稅ガ一番便利デアルト考ヘマシタカラ、總テノモノヲ消費稅ニ求メタノデアリマス、而シテ此法案ニ附イテ、詳細ノコトハイッレ特別審査委員ニ付セラレル譯デアリマスカラ、其時ニ委細ニ說明ヲ致シマス、ドウゾ豫算案及稅法案ニ附イテ、十分審査ヲ御遂ゲニナツテ成ルベク速ニ本院ヲ通過センコトヲ望ミマス、而

シテ尙ホ一言致シテ置キマスルガ、ソレハ財政整理ノ意見デアリマス、憲法實施後既二十餘年ニナリマスカラ、此間ニハ餘程時勢モ變轉シテ來テ、二十七八年ノ役モアリ、戰後ノ經營モアリ、貨幣制度モ變リ、今日ニ於テハ最早事物ヲ大體上ヨリ達觀シテ、權衡ヲ酌量シ、總テノ國家事業ト國力民力ヲ適合スルガためニ、大ニ整理スルコトガ必要デアラウト思ヒマスカラ、政府ハ之ヲ斷行スルコトヲ考デアリマス、而シテ此財政整理ノ方法機關等ニ附イテハ、今日此處デ明言スル譯ニナリマセヌガ、本大臣ノ考フル所デアハ、成ルベク是ハ立法行政諸員ガ憂ヲ分チ勞ヲ共ニシテ、完全ナル結果ヲ得ルコトヲ切望シテ居ル譯デアリマス、此事ヲ一言シテ置キマス

○高木正年君(百六十番) 議長

○議長(片岡健吉君) 質問デスカ

○高木正年君(百六十番) ヘイ——大藏大臣ニ唯今ノ御演說ニ就イテ一言承テ置キタイコトガアリマス、増稅案ノ說明書ヲ讀ンデ見マスルト、公債支辨ニ換ヘルニ増稅ヲ以テスルト云フコトハ、總テノ増稅案一列ニ其意味ヲ說明シテゴザイマス、是ニ附イテ御尋ヲ致シタイノハ、今日經濟界ノ有様ガ公債支辨ヲ以テ爲スコトノ出來ナイト云フタメニ増稅ヲスルト云フコトハ、即チ讀テ字ノ如ク分テ居リマスガ、若シ公債支辨ヲ爲スコトノ出來ナイ、經濟界ガ危急ノ極度ニ達シテ居ルトキニ、是ニ換ヘテ二千幾百萬圓ノ金ヲ此經濟界ノ容易ニ復スルコトノ見込ノナイ民間ヨリ、兩三年間モ續イテ吸收スルト云フコトハ、恰モ公債支辨ヲ爲スノ經濟界ノ亂スガ如ク、此間ニ附イテ經濟界ノ亂スノ道理ハ同一ノコトデアラウト思ヒマス、サリナガラ政府ハ公債支辨ニ換ヘテ増稅ヲ爲スノハ、少モ民間ノ經濟界ニ是ダケノ資金ヲ吸收シテモ差支ナイト云フ御考デアアルカ、ソレヲ一ツ承リタイ、ソレカラ第二ハ唯今ノ大藏大臣ガ終リニ述ベラレタ財政ノ整理ト云フコトデゴザイマス、政府ハ既ニ憲法制度ヲ布イテ以來十數年ノ間ニ於テ、多少改革スベキ今日ハ事實ヲ見出シテ居ル、即チ取モ直サズ財政ト云フモノハ稍、整理ヲ缺イテ居ルト、政府自ラガ斯様ニ信ゼラレタコトヲ今辯明セラレタノデ、財政ヲ整理セ

ネバナラヌ今日ノ時期デアルト云フコトヲ申スコトヲ聞キマスルト、今日政府ガ出シタ豫算ハ、恰モ政府自ラガ其信ヲ措クニ幾ラカ躊躇スル事情ガアルト云フコトヲ、自白セラル、ト同一ノ理由ニナルノデゴザイマス、是ニ附イテ一言承リタイノハ、斯ク不安心ノ豫算デアラナラバ、吾々ガ之ヲ審議スルニ尙ホ一層ノ考ヲ、此間ニ挾マナケレバナラヌ事情ヲ生シ來ルト思ヒマスカラ、政府自ラ今日ノ財政ニハ不安ヲ懷イテ居ルト云フコトデアルト云フ意味ニ、唯今ノ御演說ハ私共ニハ聽エマス、其點ニ附イテドウゾ御辯明ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第三ニハ今度ノ増稅案ハ、僅ニ六百萬圓ノ金ヲ集メルト云フコトニ三十四年度ハナラデ居ル、サウ致シマス政府ノ求メマシタ多額ノ金額ハ六百萬圓以上、何レヨリ之ヲ流用スル積デアアルカ、何レヨリ之ヲ繰替ル積デアアルカ、二千何百萬圓ト云フ費途ハ、僅ニ六百萬圓デ足リ

ト云フ道理ハナイノデアリマスカラ、是モ一應辯明ヲ煩シテ置キタイト思ヒマス

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今高木君ノ御質疑ノ第一ハ、國債ニスラ募集ニ困ル經濟社會ニ向ッテ、増稅ヲスルト云フコトハ撞著ダト云フヤウニ聞キマシタガ、サウデスカ

○高木正年君(百六十番) 資金ヲ吸收スルノハ、矢張民間ノ經濟界ヲ亂スノデハナイカト云フノデス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) ソレハ先ツ第一ニ此増稅ノ趣意ガ理由書ニモ書イテアリマス通、北清事件ノ軍費ヲ支辨スルト云フノガ直接ナル目的デア、且ツ必要アルトキハ募債ニ換ヘル等ノタメニスルノデアルカラ、土臺ガ此北清事件ヲ此儘ニ置クカ、撤兵ヲスルカ、亞細亞ノ關係ヲ離レルカ、孰モ出來能ハヌカラ、ソレガ目的デアリマスカラ、左様ニ御承知ヲ願ヒタイ、ソレカラ募債ト増稅ノコトデスガ、前ニモ申シマシタ通、此度ノ増稅ハ消費稅デアリマシテ、消費物カラ取ルコトニナラデ居リマス、經濟社會ノ金ヲ募集スルト云フコトハ、消費物ノ消費ニ對シテ稅ヲ拂フト云フコトハ、全ク關係ガ異ナル譯デ、殊更其公債ノ事モ必シモ募債ニトモ言ヘマセヌガ、是ハ多クノ利息ヲ拂ヒ極ク手取金ヲ安クシテ募レマセウガ、斯ノ如キコトハ永遠ノタメニ高利ノ公債ヲ負フコトハ、不便不利デアルト云フコトカラシテ變ヘタノデアリマス、故ニ此公債ガ募レヌトキニ、租稅ニ取ルカドウカト云フコトハ少シ違テ居リマスノミナラズ、此既在ノ計畫ニ屬スルコトデアリマスガ、隨分此租稅ノ額ト公債ノ額ト國力如何ト云フコトハ十分審査シナケレバナラヌ、故ニ出來得ルナラバ是ハ増稅ヲ以テシテ、一世ノ事業ハ一世ノ人ガ支辨スルガ當リ前、此等ハ餘程國力トモ相談ヲシナケレバナラヌ、故ニ將來ニ於テ必要アルトキハ之ヲ募債ニ換ヘルト云フ趣意デアリマス、其次ニハ

○高木正年君(百六十番) 唯今ノハ少シ要領ヲ得マセヌカラ、便宜上此處デモウ一應申シテ置キタイト思ヒマス、唯今大藏大臣ハ如何ニモ巧妙ナル意味ヲ以テ、私ノ質問ヲ抹殺サレマシタガ、斯業ナ意味テ私ハ質問致シマシタ、公債支辨ト申ス上ニ附イテ、大藏大臣ノハ其辭ヲ取テ私ノ質問ヲ御消シニナリマシタガ、元來今度ノ事變ニ附イテノ金ハ、彼ノ三基金ガマダ二千有餘萬圓殘テ居ルノヲ、而モ是ハ政府ガ公債ニシテ居ルタメニ賣出スコトガ出來ナイ、今日ノ經濟界ハ之ヲ賣出スコトヲ許サヌノデアラデ、已ムヲ得ズ政府ハ消費稅ニ依ッテ取ルト云フ實際ノ意味ニナラデ居ルト思フ、成ル程消費稅ヲ取ルノト、公債ヲ募集スルノトハ事柄ハ違フヤウデアラデ、經濟界ニ於ケル響モ又多少間接直接ノ違ハアリマシテモ、民間ノ資金ヲ政府ガ集メテ、民間ノ金融ヲ惡ルケスルト云フコトハ同シ結果ニナリマス、ソレ故ニ斯様ナコトハ今日尙ホ政府ガ公債支辨ガ出來ナイト云フ時機ニ斷行シテモ、經濟界ハ何ノ痛痒ヲモ感シナイト云フ御考デアアルカト云フコトヲ質問シタノデアリ

マス、分ルヤウニ御説明ヲ願ヒマス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 本大臣ノ見ル所ニ依ルト、消費者ガ消費ノ稅ヲ拂フコト、經濟社會ノ資金ヲ募集スル公債トハ違フ話デ、同シ金デアアリマスガ、同シ金デアアツテモ消費的ノモノハ資本トハ云フベカラザルモノデアアツテ、生産上ノ意味ガ加ヘラレテ始テ資本ト爲ルノデ、公債ノ募集ニ應ズル經濟社會ノ資本ナルモノト一ツニ御覽ニナルノハ、本大臣ノ意見トハ異ナル、是カラシテ第二ノ御問デゴザイマス、來年ノ——明治三十四年度六七百万圓シカ取レヌ、其他ハドウスルハ借入金ヲ以テスル外ナイ見込デアゴザイマス

○高木正年君(百六十番) 第三ハ何デシタ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 第三ハ何デシタ

○高木正年君(百六十番) 財政ノ整理ト云フコトヲ言ッテ、政府自ラ今日ノ財政ハ不安心デアアルト云フコトヲ言ハレタ……

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 是ハ先刻モ申ス通、憲法實施以來最早十年ニモナツテ追々ニ形勢ガ變テ二十七八年ノ戰爭モアリ、戰後ノ經營モアリ、貨幣制度ハ變ル、又事業ハ膨脹スル、種々ノ事情ガアツテ變タルガ故ニ、國力ト事業ト相適合セシムルタメニ整理スルコトノ必要ガアル、斯ウ云フ次第デアアル今日ノ儘デアレバ茲ニ提出シタル所ノ豫算ガ至當デアリマスカラ、尙ホ其上ノ事業ノ緩急等ヲ審察シテ、急要ヲ舉ゲテ不急ヲ後ニシ、無用ヲ節シテ有用ニ供スルト云フコトガ整理デアリマス、此豫算トツレトハ異ナルコト、考ヘマ

○工藤行幹君(六十六番) 私モ大藏大臣ニテヨット辯明ヲ煩シタイコトガゴザイマス、ツレハ外デアゴザイマセヌガ、此酒造稅法中改正法律案ノ理由ニ、清國事件ノタメニ要スル經費ノ支辨ニ充テ、軍艦水雷艇補充基金ヲ補充スルト云フコトガゴザイマスガ、此増稅ノタメニ取ツタ所ノ費用ハ、清國事件ノタメニ使ツタ軍艦水雷艇ノ基金ヲ辨償スルノデアリマスガ、若クハ勅令デア出シマシタ所ノ三基金、即チ五千万圓ヲ支那事變ニ使ツテ、此五千万圓ノ補充ヲスルト云フ意味デアゴザイマスガ、マダ是ハ事後承諾ガ出來マセヌカラ分ラナイケレドモ、私ノ疑フ所ハ五千万圓アツタナラバ、此目下ノ支那ニ出テ居ル所ノ支那事件ノ費用ヲ支ヘルコトヲ得ルダラウト思ウテ居ル、然ルニ茲ニ書イテアル所ガ、此三基金ノ補充ト云ヘバ基金ヲ再ビ設ケルタメノ、是ハ増稅ノ一ツノ理由デアアツテ、支那ノ事變ニ對スル費用ハ、悉ク緊急勅令ニアル三基金ヲ以テ充テテ積デアアルカト云フコトガ疑ハシイノデアゴザイマス、故ニ此御辯明ヲ明ニ得タイ、言換ヘテ言ヘバ五千万圓ノモノハ公債ニナツテアツテモ、何デモ殘サズ支那ノ費用ニ充テテ、サレバ基金ガナクナルニ附イテ、此基金ヲ補充スル意味デアアルカ、若クハ此増稅ノ金ノ中ヲ支那ノ事件ニ、又之ヲ使フト云フ意味デアアルカト云フコトヲ何ツテ置キタイ

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今工藤君ノ御問ハ少シ分リ兼ネタガ、解釋

スル所ヲ以テ御答致シテ置キマス、政府ハ此北清事件ニ附イテハ特ニ財政計畫ヲナシテ、而シテ出兵ナリ何ナリシナケレバナラヌノガ、マア一體法律上ノ順序デアリマスガ、ツレハドウモ緊急ノ際、サウ云フ譯ニ往キマセヌカラシテ、取敢ヘズ憲法七十條ノ權能ニ依ツテ處分ヲシテ置キマシタガ、是ハ矢張其一時ノ處分デ已ムコトヲ得ヌスルコト、時機ガアレバ矢張臨時議會ナリ召集シテ、財政計畫ヲ爲スガ至當ノコト、考ヘル、即チ法律ニ於テモ外ノ事ニ使フコトハ禁シテアルノミナラス、其軍艦水雷艇補充基金ナドハ、ツレ自身ノコトデモ元金ハ使ハヌコトニナツテ居ラウト思ヒマスカラ、是ハ議會ガ召集セラレバ財政計畫ヲシテ、一時ノ處分ハ戻シテシマフガ當リ前デアリマスカラ、今度ノ租稅案ニ依レバ即チ別ニ四月——本年ノ四月以降ノ分ハ豫算ノ如何ナル形式ヲ以テスルカ、マダ未定デアリマスガ、此本案ノ通過ト共ニ諸君ノ協贊ヲ求メテ、而シテ始テ法律ノ正式ニ據ル意見デアゴザイマス

○工藤行幹君(六十八番) モウ少シ伺ヒタイ、サウスレバ勅令デア出タ所ノ五千万圓ノ金ハ殘ラズ使ハヌデ、其中ノ幾分ハ遺シテ置クト云フノデアゴザイマセウカ、而シテ之ヲ遺シテ置イテ、一方ニハ増稅ヲ以テツレヲ補充スルト云フ意味デアアルカ、其所ガ分リ兼ネルノデアゴザイマスガ、殘ラズ之ヲ使ツテシマツテ、其基金ヲ補充スルノデアアルカ、又ハ五千万圓ト云フモノハ勅令デア出テ居ルケレドモ、是ハ要ラヌ、此幾分ハモウ使ハナイ、而シテ増稅ヲ以テ之ニ充テルト云フ意味デアアルカ、ツレヲ伺ヒタイ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 財政計畫ガ通レバ新財源ヲ以テ充テル見込デアゴザイマス、北清事件ニハ

○工藤行幹君(六十八番) スルナラバ五千万圓ノ中幾ラツレヲ御使ヒニナツテ、幾ラ後トニ遺ス積デアゴザイマスガ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) ツレハ本年三月マデノ分ガ御裁可ニナツテ居リマス

○工藤行幹君(六十六番) 其金ハ幾ラデアゴザイマスガ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 二千八百万圓バカリ——宜シウゴザイマスガ

○工藤行幹君(五十九番) 宜シウゴザイマス

○田口卯吉君(五十九番) チヨット唯今工藤君ノ問ハレマシタコト、聯絡致シテ居リマスガ、此三基金ヲ以テ清國ノ事變ニ充テ、此金額ヲ補填センガタメニ、更ニ租稅ヲ増徴シ又新ニ起スト云フ議案デアゴザイマス、此三基金ヲ租稅ヲ以テ補填スル以上ハ、萬一清國ヨリ償金ヲ取リマシタトキニハ、ドウスルモノデアアル、ドウ云フ風ニ此償金ヲ處分セラル、積デアアルカ、又三基金ト云フモノハ、元來金貨若クハ公債ヲ以テ充テ、アルモノデアリマスカラ、ツレヨリ生ズル利息ダケガ此軍艦補充費等ノタメニ必要ナノデ、其元金ト云フモノハ必シモ急ニ租稅ヲ以テ補填シナケレバナラヌ程ノモノデアハナイ、本員等ノ見ル所ハ——ナゼナラバ——元金デアアルカラシテ、利息ダケ年々歳出ニ必要ナノデス、其元金ノ内ヲモデス、租稅ヲ以テ補填シナケレバナラヌト云

(入)

フ必要ガ何處ニ在ルカ又前ニ申シマシタ如ク、清國カラ償金ガ參ッタナラバ、ソレハドウ云フ風ニナサレルカ、此點一ツ承テ置キタイ

〔大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今田口君ノ第一ノ御問ハ、償金ヲ取ツタラバドウスルカ、是ハ成ル程新聞ナドモ御覽ノ通、相當ノ償金ヲ取ルベシト云フ如キコトマデ極ツテ居リマスガ、大抵事情モ御察知デアリマセウガ、如何ナル方法ヲ以テ支辨シテ、如何ナル約束ヲ以テ取ツテ、ドウシテ是ガ往クカト云フコトハ、實ニ前途茫漠タルコトデアリマスカラシテ、ソレガタメニ今撤兵ヲモスルコトガ出來ズ、又關係ヲ離ル、コトモ出來ヌ以上ハ、今日ノ財政計畫ハ、今日ノ財政計畫ヲシテ置イテ、他日幸ニシテ其償金ガ吾々ノ豫想ノ外ニ取レルコトガアリマシタナラバ、ソレハソレデ以テ財政ノ處分ノ仕方ガ彼ト是ト入替ハルマデ、ドウデモ仕方ハアラウト思ヒマスガ、今日未ダ確タル見込ノナイモノヲ以テ、財政計畫ヲ立テルト云フコトハ、鞏固確實ナル財政ヲ行フ者ノ敢テセザル所デアラウト思ヒマス、ソレカラシテモウ一ツハ何デスカ

○田口卯吉君(五十九番) 償金ヲ使ヒマシタタメニ、ソレヲ補填シナケレバナラヌト云フ必要ハ急ニハナイト私ハ考ヘル、急ニ補填シナケレバナラヌト云フ所ハ、償金——三基金ヨリ生ズル利息ガ缺乏スルガタメニ、ソレヲ補填シナケレバナラヌト云フ、三基金ノ元金マデモ、増稅ヲ募ツテ補填シナケレバナラヌ必要ハナカラウト思フ、ソレヲ元金マデ増稅ヲ募ツテ補填シヤウト云フ必要ハ、ドウ云フ譯デアルカ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 成ル程三基金共ニサウ云フコトニナツテ居リマスガ、實ハ是ハ法律ガ成立ツテ居リマス、即チ諸君ノ御協賛ヲ得テ孰モ必要ナモノト認メテ將來海軍ノ軍艦水雷艇ノ基金補充ノタメニドレダケノ金額ヲ入レテ、何處マデモ補充シテ參ルノガ、國家ノタメニ必要デアルト云フコトデ、法律ガ出來テ居ル、又教育基金モ矢張年々其通シテ參ラナケレバナラヌ、災害基金モ同シク然リ、地方費ト聯絡ヲシテ居リマス、故ニ此法律ノ通ニ致シマスレバ使フコトハ出來ナイ、然ルニ北清事件ハ緊急ニ起ツタコトデ、ナカナカ急ニ臨時議會ヲ召集スルコトガ出來マセウカラ、憲法第七十條ニ依ツテ此使フベカラザルモノヲ使ツテ、之ヲ不日諸君ニ向ツテ追認ヲ求ムルデアリマス、故ニ田口君ノ利息サヘアレバ宜イ、基金ガ入ラヌデアハナイカト云フノハ、丁度此法律ガ入ラヌデアハナイカト云フノト同ジコトデアアル、議會ヲ開ク暇ガナシ、其間ニ於テ已ムコトヲ得ズ憲法第七十條ノ權能ニ依ツテヤリマシタ、今日議會ガ開ケマシタ以上ハ、法律ハ法律デ、本分ヲ守ラナケレバナラヌト云フ考デアリマス

○工藤行幹君(六十六番) サウスレバ此憲法ニ依ツテ勅令デ出シタ所ノ五千萬圓ト云フモノハ、政府ハ皆使ハヌデ議會ニ承諾ヲ求メルニ付イテ、其中ノ幾分ヲ殘シテ、三千万圓トカ二千万圓トカヲ以テ、議會ノ承諾ヲ求メル積

デアリマスカ、抑五千萬圓ト云フ高ハ、即チ勅令ニ出タ高ヲ以テ當議會ノ承諾ヲ求メル積デアリマスカ、一應承リマス

〔大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル〕

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 政府ハ先ツ七十條ノ權能ニ依ツテ許可セラレタル分ニ向ツテ、追認ヲ求ムル筋ニナリマス

○工藤行幹君(六十六番) 若シ五千萬圓ノ承諾ヲ得タナラバ、五千萬圓ダケハ支那ノ事件ニ使フモノト見ナケレバナラヌト云フ、之ヲ使ハズシテ後トニ幾ラカ殘シテ置クト云フノハ、ドウ云フ意味デスカ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 是ハ今田口君ニ御答致シマシタ通、實ニ議會ヲ開ク暇ガナクシテ、致方ナク法律上ニ於テ使フコトノ出來ヌト云フコトニナツテ居ルモノヲ使ツタ、是ハ誠ニ國家ノ防衛ノタメニ已ムヲ得ナイ、然ルニ今日ハ斯ノ如ク議會ガ開ケマシタ以上ハ、是ハ正則ニ依ルノガ當リ前デスカラ、マダソレハ追認ハ得マセウガ、ソレヲ何處マデモ使ツテシマフマデト云フコトハ、出來ヌデアリマス

○工藤行幹君(六十六番) 私ノ聞ク所ニ據レバ、實ハ今大藏大臣ノ御答ノ通ノ意味デハナク、此殘リノ二千万圓ト云フモノハ、確カ政府ノ公債ニナツテ居ル、其公債ヲ賣ツテ使フガ當然デアアルケレドモ目下ノ現況公債ヲ賣ルト云フト、自然市場ノ經濟上ニ關係ヲシテ賣ルコトガ出來ナイ、買フコトガ出來ナイト云フ所カラ、已ムヲ得ズ茲ニ至ツタヤウニ新聞紙上ナドデ、政府ハ右等ノ意見デアルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、固ヨリ私ハ新聞ノコトヲ信ズルノデアハナイガ、果シテ此公債ガ賣レナイタメニヤルデアリマスカ、縱令公債ガ十分賣レテモ、議會ガ開ケタ以上ハ此後トノ計畫ヲシナケレバナラヌカラシテ、殘ツタモノヲ使ハズシテ、更ニ財源ヲ求メルト云フ意味デアリマスカ、實際ノ大藏大臣ノ經濟ノ御趣意ヲ承リタイ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 公債ヲ賣ルノモ難儀デセウ、隨分安イデセウ、併ナガラ補填ト云フコトハ、モウ法律上命ジテ居ル所デ、縱令ドウ公債ガナツタ所ガ、此戰時ノ計畫ヲ爲サズニ置クト云フコトハ出來マセウノデス、宜シウゴザイマスカ

○工藤行幹君(六十六番) 然ラバ斯様ニ心得テ宜シウゴザイマスカ、公債ヲ賣レバ廉クテ賣ルニ宜イケレドモ、法律上一方ガ成立ツテ居ルニ附イテ、斯ノ如キ租稅ヲ増徴シテ補填スルト云フ方法ヲ取ツタモノト心得テ宜シウゴザイマスカ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) ソレハ法律ノ問題ト所謂法律上議會ノ權能ト便宜ノ問題ト御混シニナリマスカラ、便宜ノコトガアツテモ法律ハ法律デ往カナケレバナリマセウ、便宜ノコトガアツタトシテモ、法律ニ於テ使フコトヲ禁シタルモノヲ其儘デ使ツテ往クト云フコトハ、法律上出來ヌコトデス、宜シウゴザイマスカ

○金岡又左衛門君(二百二十五番) 大藏大臣ノ御説明ハ如何ニモ簡單デアリ

マシテ、甚ダ要領ヲ得ルニ苦ミマスルガ、要スルニ第一ノ目的ハ三十四年度ノ軍事費、第二ハ基金ノ填補、此二ツガ重ナル目的ノヤウニ思ヒマス、而シテ其第一ノ三十四年度ノ軍事費ハ、數字ノ所ハ今御説明ガアリマセナシタガ、政府ノ機關新聞ノ報ズル所ニ據リマスレバ、凡ソ三十四年度ニ於テ二千四百萬圓ヲ要スル、ソレカラ第二ノ目的、即チ基金填補ニ要スル金ガ二千八百六十四萬圓ト云フ金デアル、之ヲ合計致シマシテ五千二百六十四萬六千餘圓、是ガ第一第二ノ目的デアル、而シテ填補及軍事費ガ即チ増稅ノ目的デアリマシテ、三十四年度ノ増稅額ハ六千七百幾ラ、三十五年度ハ二千幾ラ、三十六年度ハ二千幾ラト云フコトニ致シテ往キマス、三十四年度マデニ、即チ三十四年度カラ起算シテ三箇年ノ間ニ、僅ニ四千九百六十四萬幾ラト云フ増稅額ニナルノデアリマス、然ルニ唯今大藏大臣ノ御説明ヲ拜聽致シマスルト、二千幾ラト云フコト、千八百萬圓内外ト云フコトヲ申サレマシタ、サウ致シマスルト此四千九百六十幾ラト云フ中カラ、尙ホ六百萬圓餘ノ歳入ガ減リマス、而シテ第一第二ノ目的ノ軍事費基金填補ノ金ガ五千二百萬圓ト見積リマシタナラバ、三十六年度ニ至ッテ尙ホ此軍事費及基金填補ノ不足ヲ告ゲルコト、九百萬圓餘ニナルヤウニ見エマス、顧ミテ我財政計畫ヲ見マスルト、三十三年度カラ三十六年度ニ至ルマデニ、殆ド一億圓近キ所ノ公債ヲ募集スルト云フ計畫ニナッテ居リマス、唯今申シマシタ如ク第一第二ノ基金填補ニサヘスラ、猶二十六年度ニ至ッテ九百萬圓ノ不足ヲ生ズルノニ、三十六年度マデニ公債ヲ募集スベキ所ノ金額ハ、殆ド一億圓ト云フコトニナッテナラバ之ヲ如何ニシテ、其一億圓ノ公債ガヤレル積デアリマスカ、已ムヲ得ズ公債ノ募集ガ出來ナイカラト云ッテ、事業ヲ中止ナサル積デアリマスカ、又基金填補及軍事費ト云フモノヲ一時繰替ヘテ、此公債資本ノ方ニ充テラレル御見込デアリマスカ要スル所三十六年度デ増稅致シマシテモ、尙ホ且ツ基金及軍事費ノ方ニ數百萬圓ノ不足ガ生ズルノデアリマス、斯ノ如キ譯デアリマスカラ無論此公債支辨ノ方ノ金ニ應ズルコトハ出來ナイ計畫デアリマスガ、此場合ニ至リマシテハ政府ハ事業ヲ中止ナサル御見込デアアルカ、更ニ公債ト云フコトノ御見込ガナイタメニ一ノ増稅案ヲ提出ナサルノ御積リカト云フコトヲ一應御尋致シマス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今ノ御問ハ餘リ事項ガ多クテ能ク要領ヲ得兼ネテ譯デアリマスガ、結局ハ募ルベキ公債ガ多クアル、而シテ公債ニ振向ケルコトハ後年デアアルカラ、ドウスルカト云フヤウニ聞キマシタガ、成程是ハ將來ノ上ニ於テ皆豫算ニ依ッテ協贊ヲ求メルノデアアルカラ、所謂シ掛ケタル仕事ヲ止メテドウ云フ損害ガアツテモ必シモ此三基金補填シナケレバナラヌトカ、或ハ三基金補填ヲ止メテモ其方ヲ是非ヤラナケレバナラヌト云フコトハ、其様ニ固執スベキモノデハナイト考ヘテ居リマス、ソレハ當時ノ事情ガ裁判シテ、即チ立法ノ手續ヲ以テ政府ハ豫算案ナリ法律案ナリヲ提出シ、諸君ハ協贊ノコトガアリマスカラ、今日ソレヲ豫メドウスルト云フコトヲ極メ

テ置イタ所ガ、無益ナコトデアアルト考ヘマス、ソレカラモウ一ツハ、本大臣ガ一千八百萬圓ト云フタガ足リナクハナイカト云フコトノヤウデスガ、是ハ計算書ヲ持ッテ居リマセヌガ、新稅ニ依ッテ得ルノガ千八百萬幾ラト云フノデス、酒ダノ、砂糖ダノ、海關稅ダノ、其外ニ煙草專賣ニ依ッテ得ルノガアル、是ハ法律ノ許ス所ニ依ッテ、行政處分デ其值段ノコトガ出來ルノデ、今日此増稅案ヲ紹介シテ、ソレヲ説明スルニ當ッテハ其額ヲ云フノハ、必要ガナイカラ除ケタノデアリマス

○花井卓藏君(百七十九番) 増稅案ノ理由書ノ中ニ掲ゲテアル中デ、清國事件ノ經費ニ充テルト云フ事柄ハ、極テ名ノ美ニシテ聲ノ且美ナルモノデアアル、此北清事件ニ對シマシテ政府ガ今後取ル所ノ方針ト云フモノハ、此理由書ニ依ッテ吾々ハ知ルコトハ出來ナイ、固ヨリ負擔モ致シマセウ、併ナガラ北清事件ニ致シテ今後取ルベキ方針ヲ政府ガ吾々ニ示スト云フ事柄ハ、當然ノ條理ト考ヘル、政府ハ今後如何ナル方針ヲ以テ此北清事件ヲ處理セントスルノデアアルカト云フコトヲ第一ニ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニハ同文公書デゴザリマス、同文公書ハ思フニ北清事件ノ結了ヲ告ゲルト云フ點ニ於テ第一段ノ歴史ニ屬スルト思フ、而シテ同文公書中ニ帝國政府ガ要求シテ居ル所ノモノハ、杉山書記生ノ損害賠償ヲ求ムルト云フ一項ダケガアルニ外ナラズ、今日北清事件ノ燒點ト云フベキ滿州ト云フ問題ノ如キニ至ッテハ、一言半句ノ文字ノ上ニ現レテ居ル所ヲ發見致シマセヌ、政府ハ此滿州ノ事件ニ附イテハ何等ノ要求スル所ガナクシテ止ムト云フ御方針デアアルカ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイ、勿論是ハ(問題外問題外)ト呼フ者アリ(問題外デハナイ、勿論是ハ別段ナル約束ヲ以テ、別段ナル要求ヲ以テ、更ニ獨立シタル方法ヲ取ルト云フ御解釋ガアルカ知ラヌガ、私ハ同文公書ノ場合ニスラソレダケノ要求ノナイ政府デアアルカラ、更ニ後日ノ要求ヲスルト云フコトガアルカ否ヤヲ甚ダ懸念ヲスル、此増稅案ニ附イテ贊否ヲ決スルニ大切ト思ヒマスカラ、大藏大臣並ニ外務大臣ノ答辯ヲ願ヒマス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今花井君ノ御質疑ハ餘リ此問題ト懸離レテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ憲法ノ——議院法ノ手續ニ依ッテ御質問ニナッダラドウデス

○花井卓藏君(百七十九番) 答辯シタラドウデス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) サウスルト限ノナイコトデアリマスカラ、本大臣ハサウセラレンコトヲ希望致シマス

○田中正造君(二百三十九番) 經濟上ニ委シイ御方ガ段々御質問ガアリマシタカラ、其面倒臭イ算盤ノコトヲ御聞申スノデハナイ、今度大藏大臣ハ長ク大藏省ニ御居デニナッテ御方デゴザリマスカラ、御質問ヲ申スノデス、ソレデ大藏大臣ハ各省ノ財政ノ監督ヲスル權利ヲ持ッテ御居デナサルカラシテ、大藏大臣ハ大藏省中經濟ノ監督ヲスリヤア宜イト云フ人間デハナイ、從來ノ各省ノ經濟ノ紊亂シテ居ル御報告ガ落チテ居ルデス、其御

報告ガナクテ、唯ニ費用ヲ御増シニナルト云フコトハ、大藏大臣ノ責任トシテ意外デアルガ、一體帝國議會開ケテ今日ニ至ルマデ十年、此二十三年ニ帝國議會ガ開ケタ當時ニ於テハ其當時ノ歳入ノ殆ド三倍デアアル、然ルニ此經費ノ少イトキハ八千万圓若クハ九千万圓ト云フ聲ノトキハ、畏クモ我日本帝國ノ憲法ト云フモノガ行レテアツタノデスガ、然ルニ年々歳々此經費ノ増加スルニ随ッテ、憲法ノ行レナクナツタノハ意外ナ譯デアアル(笑聲起ル)サア諸君御笑ニナル諸君ハ、能ク此憲法ノ増加ノ經費ノ——歳出増加スルニ從ッテ憲法ノ行レナクナツタコトハ御熟知ノ御方デアラウト思フ年々經ル毎ニ歳用ハ増加シテ行クコトニ憲法ノ影ガ薄クナツテ來タト云フコトヲ以テ見レバ、此歳用ノ増加ハ——歳入歳出ノ増加ハ歿ド憲法ノ效力ヲ撲滅スル費用ニナツタト云フモノナリ、辭ヲ換ヘテ云ヘバサウナル、何ノタメニ從來ノ經費ガ多クナツタノデアアルカ、必要ナル所ノ歳出ハ誰カ之ヲ惜ム者ハナイデアラウ、左様ナコトハ申スマデモナイ話デアアル、ナゼ歳出ノ増加スルニ從ッテ憲法ノ影ヲ薄クシタノデアアル、昨年マデニハ殆ド明治——三十四議會ト云フニ至ッテハ、殆ド憲法ノ形ヲ無クシテシマツタノデアアル西原君ノ昨年ノ演壇ニ於テノ演說モアル、憲法ト云フモノガ今日何處ニ行レテ居ルノデアアルカ、今日ノ所ハ獨リ臺灣ノ高野孟矩ノ問題ノミナラズ、鑛毒地方ノ問題ノミナラズ(拍手起ル)憲法ノ全部ガ何レノ所ガ行レテ居ルノデアアル、憲法ノ内ガ一箇所デモ完全ニ行ハレテ居ルモノハナイノデアアル、併ナガラ此上ニ政費ヲ増加シテ憲法ハナクナツタ、ナクナツタ憲法ヲ猶更ニ憲法ヲ撲滅シヤウト云フノハ……

○議長(片岡健吉君) 田中正造君、本問題ノ御質問ナラ其要領ヲ御述ベナサイ

○田中正造君(二百二十九番) 何ト仰セラレ

○議長(片岡健吉君) 本問題ノ御質問ナラ其要領ヲ御述ベナサイ

○田中正造君(二百二十九番) 凡ソ此帝國議會ニ於テ質問ヲ——大臣ニ向ッテスル質問ハ拙者ガ——本員ガ爲スガ如キガ大臣ニ向ッテ爲スベキ質問デアアルノデ、中ノ算盤上ノ會計ノ如キハ、宜シクツレハ俗吏ニ問ウテ然ルベキモノデアアル、今日ハ總理大臣ガ御出席ニナルト云フ答デアアルガ、御出席ガナイト云フコトヲ大藏大臣ガ御斷デアアルカラ、大藏大臣ハ總理大臣ニ代ッテ御答辯ニナルコトヲ私ハ希望致シマス

○竹内正志君(二百九十七番) 私ハ總理大臣ガ御出席ニナレバ、少シ質問ヲ致シテ見タイト思ヒマシタコトガアリマシタガ、御出席ガナイト云フコトデ遺憾デアリマスガ、是ハ已ムヲ得マセヌカラ、大藏大臣ニ少シ御尋致シタイ、ソレハ外ノコトデアリマセヌガ、此増稅案ノ理由書ヲ見マスルト全部デアアリマセヌガ、其内ノ幾分ニ今度ノ派遣軍隊ヲ飢エセサルコトハ出來ズト云フ立派ナル理由ト、ソレカラ三基金ヲ填補スルト云フコトデアリマスガ、第三番目ニ公債募債ト云フコトガアリマスルガ、此事ニ附イテ御尋ヲ致シタイ

ト思フ、大藏大臣ハ今ノ大藏大臣ハ即チ十年計畫ヲ立テラレタ所ノ、戦後ノ經營ヲ立テラレテ二十九年度ノ増稅案ヲ出サレタ大藏大臣デアアル、其大藏大臣ノ當時言ハレマシタ辭ニ附イテ彼是申スノデアアリマセヌガ、免モ角此増稅案ト云フモノハ、今度デ三度目デ、増稅案ヲ出サレル毎ニ財政ヲ整理スルト云フ極立派ナル名ノ下ニ増稅案ヲ提出サレマスルガ、此事ニ附イテ頗ル疑ヲ存スルノデアアル、前ノ十年計畫ノ第一ノ要點ハ増稅デアアル、當時ノ大藏大臣ノ演說ノミナラズ事實ガ違ッテ居ルツレカラシテ一方ニハ公債ヲ募集スルト云フコトデアリマスガ、其公債ト云フモノハ私ノ聞ク所ニ據レバ殆ド募集ヲサレテ居ラヌヤウデアリマス、即チサレテ居ラヌコトハアリマセヌガ、外國デハ募集サレテ居ルヤウデアリマスガ、内地ニ於テ募集サレヌト云フコトハ第一ニ二十九年度ニ一千万圓バカリノ公債ガ募集サレタ以來、殆ドナイ、跡ハマルデ大藏省ト中央金庫トノ繰リ遣リデ以テ——遣リ繰リデ以テ此政府ノ財政ガ出來テ居ル、然レバ此公債ト云フモノハ、モウ其當時ハ募集ヲシテ新事業ヲ爲スト云フコトデアリマシタガ、此後公債募集ト云フコトノ計畫ハ潰レタノデアアルカト疑念ヲ懷ク、之ガ第一ニ說明ヲ要スル所以デアリマス、ソレカラ今度ノ増稅案ニ附イテハ、第三番目ノ理由ハ公債ト云フコトニ換ヘルト云フコトデアリマスガ、今マデ事實ニ於テ公債ヲ募集スルト云フコトハ、餘リ出來テ居ラヌ、今私ガ申シタ如ク出來テ居ラヌ以上ハ、公債ノ事業ヲ起スト云フコトハ、全然失敗ニ歸シタノデアアル、故ニ是ハ増稅ヲ以テ公債ニ換ヘルト云フ政府ノ方針ハナイカト云フコトヲ私ハ疑念ヲ懷クノデアアル、其事ニ附イテ大藏大臣ノ明答ヲ願ヒタイ、公債募集ト云フコトハ全然失敗シタ、二十四年二十五年二十六年度ト既往ノ三箇年間デモ、公債募集ハ一億萬圓以上ノ公債ヲ募集ヲシナケレバナラヌ、然ルニ此公債募集ト云フコトハ、モウハヤ初カラ失敗ニ歸シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、サウスレバ此將來事業ヲ起スコトニ附イテ公債ハ止メテ、今度ノ如ク財政ヲ整理スルト云フ美ナル名ノ下ニ此案ヲ出サレタヤウニ思ヒマスガ、果シテサウデアリマスカ、説明ヲ煩ハシタイ、ツレカラシテモウツ此財政整理ト云フコトニ附イテ昨日ハ政友會デモ決議ニナツタヤウデアリマス、ソレカラ總理大臣モ御抱負ガアルト云フコトヲ豫テ承ッテ居リマス、從ッテ現内閣ノ方針ハ財政整理デアアルト云フコトハ開イテ居ルガ、財政ヲ整理シタナラバ遠キ以前ハ問ハズ、三十三年度ニ於テハドウ云フコトニナリマセウカ、無論小サイ事ハ私ハ承ラヌデモ宜シイ、大體ニ於テ財政ヲ整理シタナラバ、此經濟上政費ノ上ニ附イテドウ云フ節減ガ出來ルカト云フコトニ附テハ、大藏大臣ハ抱負ガアルダラウト思ヒマスカラ、此事ニ附イテモ大體ヲ承ルコトガ出來ルト思ヒマスカラ、以上ノ點ヲ質問致シマス

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今竹内君デスカ御質疑ノ、公債ヲ募ラヌ、是ハドウ云フコトニナツテ居ルカト云フコト、存ジマスルガ、何サマ必要丈ハ募ッテ不必要ノ分ハ募ラヌ、隨分此市場ノ模様モ惡ルイカラ或ハ是マデ償金デ

繰返ヘタリ、日本銀行ヨリ借入タリシテ、既ニ本年ナドモ二百五十万圓ダケ發  
行シテアルト云フコトデアリマス、此事情ハ今此處テ申シマシタ所ガ、ドウモ  
御分リニナラヌカモ知レマセヌガ、或ハ其事業ノ後レテ居ルノモアル、即實際  
ガ運バズシテ段々繰越シ繰越シテ來テ、矢張是カラ先キハ繰越シテ往クカラ  
シテ、事業ガ後レタガタメニ不用ノ額ガアル、其部分ハ孰モ公債ヲ募ツテ利息  
ヲ拂フニハ及バナイ、ツレモアリ、或ハ他ニ償金ナドガ現金ガアレバ、是レ亦  
強テ國債ヲ募ツテ利息ヲ拂フニハ及バヌカラシテ、夫等ノ事情ヲ御話シマセヌ  
ト分リ兼マセウ、公債ハ最早失敗デアルカラ、公債ハ出來ナイ、一切是カラ將  
來出來ナイ、是ハ増稅ニ換ヘルノカト云フガ、サウヂヤナイノデ、是ハ一時ノ  
コトデ、公債ガ出來ナイトハ見テ居ラヌノデ、ツレカラシテ田中正造君ノ御質  
問ハ、憲法ガ行レテ居ラヌトカ云フコトハ（此時竹内正志君「財政整理ト云フ  
コトニ附イテノ御説明ハ」ト呼フ）本大臣ノ見ル所ハサウ考ヘマセヌ、憲法ガ  
行レテ居ルカラ、斯ノ如ク議會モ開カレテ居ル、又歳計ノ増額ヲシテ困ル、  
是ハ成程成ダケ是ハ經費ハ節シタイ、ドウカ民力ハ休養シタイコトデスガ、必  
要ナコトデアリマスルガ、是モツレノ立法ノ手續ヲ經テ、諸君ノ協贊ヲ經  
テ増シテ來タモノデアリマスカラ、今日此處デ「ウスルコトモ出來ナイガ、  
是等モ亦ヤル、財政整理ハ先刻モ申シタ通國力民力ト國家ノ事業トノ適應ニ  
附イテ、篤ト調査ヲ要スル問題ト考ヘマス、ツレカラモウツノ（此時聽エ  
ヌ）ト呼フ者アリ）是ハ今度財政整理ヲシタ結果ハドウナルト云フ御問ト考  
ヘマスガ、サウヂヤナイマスカ、是ハドウモ隨分結果ヲ見ヌ中ニ豫想ヲ申スト  
云フコトハ責任ヲ負ヒ兼マス、併ナガラ斯ウ云フコトハ言ヘマス、吾々ノ財  
政整理ト云フコトハ強ニ事業ヲ止メテ經費ヲ減削スルト云フ唯一ノ目的ヲ以  
テスルノデナイカラ、所謂緩急ヲ案ジテ、先刻モ申シタ通、急要ヲ舉ゲテ不  
急ヲ後ニスル、或ハ延バズ、又冗費冗員アレバ之ヲ淘汰シ、之ヲ省ク、斯ウ  
云フ譯デアリキマスルカラ之ヲ調ベテ見マス、今日減ズル積リカ増ス積カト  
申シタ所ガ、何ノ詮ハナイ、或ハ將來ニ於テ減ズベキコトガアレバ減ズルガ  
宜イ、又ドウシテモ國家ノタメニ必要ナル事業デ舉ゲザルベカラザルモノデ  
アレバ、是ハ諸君ノ御協贊ヲ求メテ是非起サネバナラヌ世間ハ色々消極積極  
ト云フ論モアリマスガ、到底是ハ國力民力ヲ國家ノ事業ト適合セシムルガ必  
要デアアル、強チ今日減ズル目的トカ増スト云フ目的ヲ以テ豫想ヲ以テ掛ルト  
云フコトハナイト思ヒマス

○竹内正志君(二百九十七番) 一應分リマシタ、財政整理ト云フコトハ増稅  
ト云フコトハ違フデゴザイマセウカ、ツレヲ承リタイ、今マデ増稅案ノ出ルト  
キハ財政整理ノ名ノ下ニ出テゴザイマス、即チ財政整理ト増稅案トハ違フデ  
ゴザイマセウカ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) ドウ云フコトデス今ノ御問ハ  
○竹内正志君(二百九十七番) 財政整理ト云フコトハ、即チ増稅ヲスルト云

フコト、ハ別デアアルカト云フコトデス  
○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 其通デゴザイマス  
（恆松隆慶君「モウ質問ハ是レデ十分デスカラ、委員會デスルコトニシ  
テ委員ヲ澤山選ビタイト思ヒマス」ト呼フ）

○原田起城君(八十三番) 私ハ今度ノ増稅ニ附イテハ説明書ニ據ツテ見マス  
ト云フト、全ク三基金填補ニアルト認メルモノデアリマス、然ラバ此北清事  
件ト云フモノハ、全ク一時ノコトデアアル、一時ノコトデアリ一時ノ費用ヲ支辨ス  
ルガタメニ増稅ヲスルナラバ、其一時ノ事柄ガ去ルト共ニ、此増稅ハ本ニ復  
シマスルモノデアアルカト云フコトヲ承リタイ、然ルニ説明書ヲ見マス、主  
タル目的ハ北清事件ノタメデアアル、且ツ必要アルトキハ從來公債支辨ニ屬セ  
シメタル計畫ヲ變更シテ、租稅收入ノ支辨ニ屬セシムル等云々ト云フノガア  
リマス、サウシテ此必要ガ無カッタナラバ無論北清事件ノタメニ要スル費用  
デアアルカラシテ、北清事件ニ對スル費用ガ支辨シ終ッタナラバ、此租稅ハ本  
ニ復スルモノト認メナケレバナラヌト思ヒマスルガ、果シテサウデアアルカ、  
又此公債支辨ニ屬シテ居ル計畫ヲ變更シテ、租稅收入ノ支辨ニシナケレバナ  
ラヌト云フナラバ、其租稅支辨ニシナケレバナラヌ所ノ金額ノ見込ハ立ッテ  
居リマスカ、果シテ立ッテ居ルナラバ、此度ノ増稅デ其租稅收入デ支辨スベ  
キモノハ、此増稅ノ金額デ足りマスカ否ヤト云フコトヲ承リタイ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今御問ノ一時ノ限アル北清事件ニ向ッテナ  
ゼ永遠ノ稅ヲ課スルト云フコトデアリマスルガ、政府ノ見ル所ニ依リマスル  
ト是ハ稅額稅種ト云フモノハ、逐次改良モアリマスカラ、或ハ將來ニ至ッテ國  
家必要ノ事業ガ起レバ或ハ之ニ振向ケネバナラヌコトガアルカモ知レヌ、又  
各種ノ稅ヲ見渡シタ所デヨリ宜カラザル稅ガアッタトキニハ、其方ヲ整理シ  
テ此方ヲ現存シテ置クコトガアルカモ知レナイ、故ニツレ等ハ其當時ニ立法  
ノ手續ヲ經テ處分ノ出來ルコトデアリマス、今日ニ於テ規定スル必要ヲ見  
ナイ將來ノコトハ將來ニ於テ立法ノ手續ヲ以テ見込ハ立テルガ宜カラウト思  
ウテ居リマスモウツハ

○原田起城君(八十三番) ドウモ少シ御答辯ガ聽取レマセヌデ、甚ダ當惑致  
シマシタ、北清事件ハ一時ノコトデアアル、又増稅ノコトハ北清事件ニ必要ナル  
費用ヲ支辨スルタメニ増稅ヲ爲スモノナラバ、其費用ヲ支辨シ終ッタナラバ、  
矢張本ニ復スルカ、夫ニ對シテ今何カ御答辯ガアルヤウデアリマシタケレド  
モ、少モ聽取レヌ今一ツハ必要アルトキハ從來公債支辨ニ屬セシメタル計畫  
ヲ變更シテ、租稅收入ノ支辨ニ屬セシムル等ノタメニ増稅ヲ要スルト云フコ  
トデアリマスルナラバ、其租稅支辨ニシナケレバナラヌ、今日公債支辨ニ屬シ  
テ居ル事業ノ金額ハ何程デアアルカ、其金額ガ分ッタナラバ、此度ノ増稅ヲ以テ  
全クツレヲ支辨シ得ラル、ヤ否ヤ、斯ウ云フコトデス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 第一問ハ前ニ申ス通デアリマス、要スルニ期

限ヲ附ケネバナラヌ、ナゼ附ケナイ、サウ云フ期限ヲ附ケルガ必要デアルカ、同時ニ此稅ヲ止メテシマフカ、他ノ必要ノ國費ニ用ヒルカ、又ハ此稅ヲ存シテ他ノモット性質ノ惡ルイ稅ヲ止メルカト云フコトハ、當時立法問題トシテ宜イノデアアルカラ、政府ハ之ニ期限ヲ附ケナイ、ソレカラシテモウ一ツハ金額、是ハ調ベテラ分リマセウガ、此議會ニ於テソレ等ノ調ラシテ時間ヲ費スヨリモ、是ハ後トカラ調ベテ御回シタラソレデ宜カラウ

○恆松隆慶君(百二十六番) 二十七名ノ委員ニ託シテ調査セシメタイ、委員會ニ於テ十分質問シタラ宜イト思ヒマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○原田越城君(八十三番) 唯今大藏大臣ノ御答ニ依リマスルト、北清事件ヲ名トシテ増稅ヲシタモノヲ其事件ガ終レバ、他日他ノ稅トシテ宜カラヌモノヲ廢シテモ宜イト云フヤウデアアルガ、果シテ増稅ノ趣意ト間違ッテ往ッテモ差支ナイト云フ御意見デアアルカ

(「星亨君」委員説ガ出タラ極メナクチヤナリマセヌ」ト呼ビ又「先決問題」ト云フ者アリ)

(望月長夫君「質問ヨリ先ニ決スル先決問題ト云フハアリマセヌ」ト呼フ)

○原田越城君(八十三番) 唯今ノ質問ニ御答ガナイヤウデアアリマス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 先決問題ト云フノガ、議題ニナッテ居リマスカ

○議長(片岡健吉君) ナッテ居リマセヌ

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 今一應

○原田越城君(八十三番) 先刻ノ御答辯ニ依リマスルト、増稅ヲシテ北清事件ノ費用ヲ辨シ終レバ終レバ其時若シ他ニ惡ルイ稅源ガアルナラバ、ソレニ更ヘルカモ知レヌ、其時ニ起ルノデアアルカラ、今日期限ヲ附スルト云フコトハ政府ハ致サナイ斯ウ云フコトニ聽取リマシタガ果シテサウデゴザイマス

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 唯今モウ一應念ノタメニ——其時ニ至ッテ募債ニ換ヘル必要ガ起レバ換ヘル、國家ノタメニ他ノ必要ナ事業カラソレニ充テルカ、若クハ租稅改良整理ノ分ニ換ヘルカ、此稅ヲ止メテシマフカ、ソレハ其時デ宜シイ、ナカク、此北清事件ト云フモノハ大抵一年位ノ積デアリマスガ、是ガ何時ガ限ニナルカ分ラヌ、今日極リガ附タカト云フコトハ、政府ハ言ヒ能ハヌノデ、併シソレカラ以上増稅ニ期限ヲ附ケル附ケヌト云フコトハ、議論デス、私ハ唯政府ノ見所ハ附ケナイト云フ見込デアアルカラ、是ダケノコトヲ辯明シテ置キマスカラ、ソレカラ以上ハ御判決ニ任セマス

○原田越城君(八十三番) 尙ホ御尋シマスガ、其北清事件以外ニハ此増稅ハ使用スルカシナイカ、斯ウ云フコトヲ承リタイ

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) ソレハ説明書ニアル答デスカラ

(「笑聲起ル」)

○議長(片岡健吉君) 段々御質問ガアリマセウガ、モウ委員選舉ニ掛ッテハ如何デス

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百二十六番) 二十七名ノ委員ヲ議長ガ指名セラレンコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君ノ動議ニ附イテ御諮リヲ致シマス、二十七名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議ハゴザリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス——議事日程第十七ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第十七 印紙稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

印紙稅法中改正法律案

第三條 削除

第四條中委任狀ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

一 爲替手形 印紙稅 二錢

一 約束手形 印紙稅 二錢

第六條中「爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷質入證券、保險證券、株券、債券ハ」ヲ削ル

○恆松隆慶君(百二十六番) 是ハ極簡單ナ問題デ説明ガナクテ分リマスカラ、ドウゾ次ノ日程ニ移ッテ、直ニ委員選舉アラントヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガアリマセヌナレバ、議事日程ノ第十八ニ移リマス

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百二十六番) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ニ議長ガ指名シテ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス

○山本幸彦君(百十六番) 唯今ヨリ豫算ノ分科會ヲ開キタウゴザイマスカラ、當分科ノ委員ノ退席ヲ請求シマス

○議長(片岡健吉君) ソレハ先刻議場ノ許可ヲ得デアリマスカラ、御開キニナッテ宜シウゴザイマス

○山本幸彦君(百十六番) ドウゾ諸君ハアチラニ御出ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第十九ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第十九 登録稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

登録稅法中改正法律案

登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二十二號及第三條第一項第十一號ニ各左ノ但書ヲ加フ

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

○恆松隆慶君(百三十一番) ドウカ以前ノ委員ニ是ハ託セラレンコトヲ願ハマス

○中村榮助君(百二十六番) 陸海軍ノ方モドウカ委員室ニ御出ヲ願ヒマス

○恆松隆慶君(百三十一番) 此二十一ハ前ノ委員ニ付託アラシコトヲ望ミマス、併セテ二十二モ同様ノコトヲゴザイマスカラ、ドウゾ此二十一ナリ二十ニナリ一括シテ、前ノ委員ニ託セラレンコトヲ望ミマス

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第二十特別委員ノ選舉

第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○議長(片岡健吉君) 是ハ九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程ノ二十一、二十二ヲ一括シテ議題ニ供シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス

第二十一 登録稅法中改正法律案(木村誓太郎外) 第一讀會

登録稅法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二十二號中「不動産每一箇金十錢」ヲ「每一件金二十錢」ニ改メ

第三條第一項第十一號中「船舶每一箇金十錢」ヲ「每一件金二十錢」ニ改メ

第二十二 登録稅法中改正法律案(鹽田忠左衛門提) 第一讀會

登録稅法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二十二號中「不動産每一箇金十錢」ヲ「不動産每一箇金五錢」ニ改メ

第三條第一項第十一號中「船舶每一箇金十錢」ヲ「船舶每一箇金五錢」ニ改メ

第二十三 決議案(河野廣中君外七名提出)

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

○議長(片岡健吉君) 是ハ前ノ委員ニ付託シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス、議事日程ノ第二十二ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第二十三 決議案(河野廣中君外七名提出)

○議長(片岡健吉君) 是ハ前ノ委員ニ付託シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス、議事日程ノ第二十二ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

左ノ但書ヲ加フ

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

○議長(片岡健吉君) 是ハ前ノ委員ニ付託シテ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス、議事日程ノ第二十二ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第二十三 決議案(河野廣中君外七名提出)

○議長(片岡健吉君) 是ハ前ノ委員ニ付託シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通決シマス、議事日程ノ第二十二ニ移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

深ク國民ノ満足スル所デアルト云フ意味ヲ加ヘテ、私モ説明ヲ致シマス、之ヲ以テ本案ニ對シテハ十分デアラウト存ジマス

〔贊成々々〕ノ聲起ル

○議長(片岡健吉君) 本決議案ニ就イテ滿場御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ滿場一致ヲ以テ決議シタモノト認メマス

○鳩山和夫君(二番) 緊急動議ヲ提出致シマス、詰リソコヘ差出シマシタ決議案ノタメニ、議事日程ノ變更ヲ求メマス

〔鳩山和夫君演壇ニ登ル〕

○鳩山和夫君(二番) 私ガ議事日程ノ變更ヲ求メマスル題目ハ、大不列顛國皇帝陛下ノ崩御ニ附キマシテ、衆議院ハ哀悼ノ意ヲ表スルト云フ決議ヲ致シタイト思フノデアアル、此題目ノタメニ日程ノ變更ヲ求メマス、日程ガ變更セラレタナラバ、尙ホ詳細ニ理由ヲ述べル積リデゴザイマス

〔贊成々々〕ノ聲起ル

○議長(片岡健吉君) 議事日程變更ノコトニ附イテ採決致シマス

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ハアリマセヌカ——御異議ガナケレバ議事日程ヲ變更スルコトニ致シマス——鳩山和夫君

〔鳩山和夫君演壇ニ登ル〕

衆議院ハ深ク大不列顛國皇帝陛下ノ崩御ヲ哀悼ス

○鳩山和夫君(二番) 本月ノ二十二日ニ於キマシテ大不列顛皇帝陛下ハ崩御セラレマシタ、其以後ニ於キマシテ衆議院ノ開會ハ今日ガ始テマアルノデアリマス、大不列顛皇帝陛下ノ崩御ハ六十年間モ在位アラセラレ、其間ニ世界ノ人道ニ向ッテ、甚ダ著シイ改良發達ガアツタト云フコトハ皆人ノ認メマス所デアアル、殊ニ又帝國ト大不列顛國トノ關係ニ附キマシテハ、誠ニ親密ナルモノガアリマシテ、其一ノ例ヲ舉ゲマスレバ、一昨年加奈太ニ於キマシテ例ノ排日人案ガ出マシタ時分ニモ、當時ノ英國政府ハ英國ト日本國トノ關係親密ナリト云フコトヲ以テ、其案ノ廢スベキコトヲ主張セラレタト云フ事實モアリ、又日本帝國ノ多年ノ問題トシテ居リマシタ所ノ條約改正ノコトニ附キマシテモ、英國政府ハ既ニ厚意ヲ以テ日本ノ提議ヲ迎ヘラレ、最終ニ即チ今日ハ既ニ事實トナッテ居ル現行條約モ、一番先ニ調印セラレタノガ即チ英國デアアルノデアアル、其他ノ例ヲ舉ゲマシタナラバ數多アルノデアラウト思ヒマス、殊ニ今日ノ外交上ノ問題ニ附イテモ、英國ト日本帝國ガ其意見ヲ同シウシテ居ル所ガアルノデアアル、即チ英獨協商ノ成立ニ附イテハ、我帝國ガ之ニ加盟シタルト云フ如キデアアル、是ハ一ノ例デアリマスガ、日本帝國ト英國トノ外交上ノ關係ハ常ニ圓滿且親密デアアル、尙ホ此外ニモ維新以來ノ帝國

ノ總テノ文武ノ制度ニ於キマシテ、英國——獨リ英國ノミデアリマセヌガ、英國ガ與ッテカアル所ガ餘程アルト考ヘマスノデアアル、今此大不列顛國皇帝陛下ノ崩御ノ訃音ニ接シテ、吾々ハ深ク追悼ノ意ヲ表シタイト考ヘマス、諸君ハ滿場一致ヲ以テ之ヲ可決セラレンコトヲ希望致シマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○星亨君(二百四十一番) チョット提出者ニ伺ヒマスガ、提出者ハ英吉利ニ對シテ特別ナル國家ガ關係スル故ト云フコトデアアルカ、又ハ荷モ條約國ニ君臨スル所ノ帝王ガ死スレバ、必ズ斯ウ云フコトヲスルト云フコトニスル積カ、其邊ノ區別ヲ承リタイ、ソレカラ尙ホ一ツ承ルノハ、斯ルコトニ附イテハ、我國家ガ今マデ議會ガ決シタルコトガアルカ否ヤ、ソレカラモウ一ツハ帝國ト——帝室ト帝室トノ關係デアアルト云フナラバ、我 英照皇太后ニ對シテハ如何ナル彼ガ喪ヲ發シタカ、帝室ガ——英吉利ノ帝室ガ如何ナル喪ヲ發シタカ、英吉利ノ國家ハ如何ナルコトヲシタカト云フコトヲ伺フ

○鳩山和夫君(二番) 第一ノ御質問ハ、條約國ノ主君若クハ大統領ノ死亡セラレタ場合ニハ、必ズ斯ノ如キ決議ヲスル積リデアアルカト云フ御尋、是ニ附イテハ私ハサウ云フ原則ヲ茲ニ設置シヤウト云フ發議ヲシタノデハナイノデアアル、免ニ角條約國デアアツテモ、時ト場合ニ依リ其時ノ外交上ノ關係ニ依リマシテハ、衆議院ガ斯様ナ決議ヲナサザルヲ以テ至當トスル場合モアルカト考ヘマスカラシテ、大不列顛國皇帝陛下ノ崩御ニ對シテハ此決議ヲ爲スル正當ト考ヘマスガ、其他ノ場合ハソレハ其時ノ問題デアツテ、今日ハ原則ヲ茲ニ設ケルデアナイト云フコトヲ以テ御答ニ致ス、又第二ハ確カ英照皇ノ御崩御ノ際ニ、英國ガ宮中喪ヲ發シタカト云フコトデゴザイマシタカト思ヒマス、之ハ私ノ記憶ニ據レバ、英國ノ皇室ハ宮中喪ヲ發セザリシト記憶シテ居リマス、今一ツノ御尋ハ帝國ノ衆議院ガ斯ノ如キ決議ヲ爲シタカト云フ御尋ネデス、是ハ御尋ネナクテモ星君ハ御承知ノ通、マダ無イト考ヘマス

○星亨君(二百四十一番) 私ハ茲ニ一ツノ動議ヲ出シマスガ、提出者ニ對シテ之ヲ撤回シテ貫ヒタイト考ヘマスガ、或ハ此會場ニ於テ或ハ之ヲ議論スルト云フコトモ、却テ提出者ノ意思ニ反對ナル結果ヲ生ズルト云フコトニ附イテハ、餘リ面白クナイト考ヘマスル故ニ、本案ハ委員會ニ付託スルト云フコトノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○佐々友房君(二百二十三番) 議長

○議長(片岡健吉君) 佐々友房君

○佐々友房君(二百二十三番) 私モ星君ニ同感デアリマス、先刻内交渉ヲ致シタ時分ニ、鳩山君ニ其趣ヲ以テ御主意ヲ申シテ置イタノデアリマス、ソレデ星君ノ動議ニ贊成致シマス

○議長(片岡健吉君) 委員付託ガ先決問題デアリマスカラ、委員付託ニ就イテ採決致シマス——御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ委員付託ニ決シマス、委員ハ……

○星亨君(二百四十一番) 然ラバ議長指名デ委員ハ九名デ宜シウゴザイマス

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 其異議ナケレバ其通致シマス、議事日程ノ第二十四ニ

移リマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——菅野善右衛門君

第二十四 徵兵令補則法律案(菅野善右衛門君提出) 第一讀會

徵兵令補則

第一條 現役ノ徵集ヲ免カレタル壯丁ハ免役後四箇年間兵役稅ヲ納ムル義務アルモノトス但シ志願兵トシテ入營シ又ハ士官候補生トナリタル者其

ノ他軍人軍屬トナリタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 兵役稅ハ一箇年金六圓トス

第三條 兵役稅ノ徵收ハ國稅徵收法ニ依ル

第四條 徵兵令ニ依リ現役ニ徵集セラレタル者ハ勅令ノ定ムル處ニ依リ一

時金百五十拾圓以內ノ給與ヲ受クルモノトス

第六條 徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命セラレタル者ニハ勅令ノ定ムル處

ニ依リ其ノ給與額ノ五分一以內増加給與スルコトヲ得

第七條 徵兵令第十三條ニ該當スル者ハ本法ニ依リ給與ヲ受クルノ限ニ在

ラス

第八條 左ノ場合ニ於テハ本法ニ依リ給與ヲ受クルコトヲ得ス

一 願ニ依リ歸休シタルトキ

二 疾病ニ因リ除隊セラレタルトキ

三 重罪輕罪ヲ犯シ處分セラレタルトキ

四 逃亡シタルトキ

第九條 兵役稅ノ免除、猶豫及徵收期等ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔菅野善右衛門君演壇ニ登ル〕

○菅野善右衛門君(百八十五番) 諸君、本法提出ノ理由ノ如キハ、諸君ニ於テ

既業ニ御熟知ノコトデアラウト深ク信ジラレマスニ依ッテ、申述ベルコト

ハ控ヘヤウト思ヒマシタゴザイマシタケレドモ、實ニ此兵役ニ服スル者ノ

今日ノ狀態ト云フモノハ、名狀スベカラザル有様デゴザイマスニ依ッテ、一

言申述ベヤウト思ヒマシマス、諸君、國家ヲ保護スルモノ、即チ

國家ヲ保護スル所ノ義務ヲ負フ所ノ者ハ誰デアルカ、申スマデモナク舉國人

民デアルト言ハネバナラヌコトデアラウト思フノデゴザイマス、然ルニ舉

國人民ト申シマシテモ、其中ニハ老幼婦女子ノ如キ兵役ニ堪ヘザル所ノ者ガ  
ゴザイマスカラ、已ムヲ得ズ勇壯活潑ナル男子ニ委ネナケレバナラヌノデゴ  
ザイマス、我國ノ兵制モ即チ左様ニ極ッテ居リマス、即チ徵兵令ノ第一條ニ  
日本帝國ノ臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳ノ男子ハ兵役ニ服スル義務アル  
モノト規定シテアラル、ト云フモノハ、男子皆兵ノ主義デアリマス、然ル  
ニ其實際ハ如何ニナッテ居ルカト云ヘバ、國家經濟ノ然ラシムル所、國情ノ  
然ラシムル所デ、兵制モ定ッテ居リマシテ、詰リ一部分ノ者ガ兵役ニ服シ  
テ居ルト云フ有様ナノデゴザイマス、彼ノ兵役ト云フモノハ、申スマデモナ  
ク一ノ私ハ租稅デアルト思フノデゴザイマス、租稅ハ如何ナルモノニナッテ  
居ルカト申シマスルト、是レ亦申スマデモナク租稅ノ原則ハ寬苛輕重厚薄ノ  
弊ナク、國民一般ノ利益ノ上ヨリ、或ハ財產ノ上ヨリ、平等ニ負擔スル方法  
ニナッテ居ルノデゴザイマス、然ルニ兵役ハ如何ニナッテ居ルカ、抽籤ノ結果  
或一部ノ人民ガ負擔スルノデゴザイマス、而シテ租稅ノ平等ナラザル場合ニ  
當ッテハ如何デゴザイマシタカ、彼ノ明治五六年ノ頃詔勅ヲ發セラレテ、租稅  
ハ國家ノ大事デアアル、人民利益ノ關スル所デアアル、故ニ厚薄輕重ノ弊ナクシ  
テ、國民ニ勞逸ノ偏ナカラシメント云フ詔ガアッテ、地租改正ヲ斷行シタノデ  
ゴザイマセウ、地租改正ヲ斷行シテモ尙ホ不均ナリトシテ、地價ノ修正ヲ行  
ヒ、其後地價修正ヲ行ヒマシテモ尙ホ公平ナラズトシテ、天下ハ騷然トシテ是  
ガ修正ヲ呼號シタノデゴザイマス、而シテ今ヤ兩度ノ地價修正ヲ爲シテ居ル  
有様ナノデゴザイマス、私ハ思フニ租稅ハ斯ノ如ク平等ニスルガ、兵役ハ平等  
デナクテモ宜イト云フコトハナイ、ドウデゴザイマスカ、租稅ハ國家ノ大事  
人民休戚ノ繫ル所、從前其法一ナラズ寬苛輕重厚薄ノ弊アリ、之ヲ改正シテ  
民ニ勞逸ノ偏ナカラシメント云フ御趣旨ト云フモノハ、兵役ニ及シテモ宜イ  
ト私ハ思フノデアリマス、兵役ハ國家ノ小事ナリ、人民休戚ノ繫ル所デナイ  
ト云フコトハ言フコトガ出來マイト思フノデゴザイマス、實際兵役ニ服  
スル所ノ者ハ如何ナル有様デアルカ、彼ノ抽籤ノ結果トシテ兵役ニ服スルモ  
ノガ、二箇年間入營シテ居リマスルト、殆ド三百——金額ニ見積リマスルト三  
百圓位ニ價スル、サウシテ或ル一戸ナドニハ——往々アルコトデアゴザイマス  
ルケレドモ一戸デ四五年ノ間ニ二名ノ兵役ニ服スル者ガアルデゴザイマス、  
サウスルト四五年間ニ五六百圓ノ租稅ヲ負擔スルト同一ナル有様ニナル  
ノデゴザイマス、所デ兵役ニ服スル所ノ者ハ生活ノ度ヨリ申シマスルト、多  
イノハ中等以下ノ人デ勞動スル所ノ人多イノデアリマス、僅ニ五圓ヤ七圓  
ノ租稅ナリ營業稅ナリ納メル所ノ者ガ、五六年ノ間ニ五六百圓ノ稅ヲ負擔ス  
ルト云フ有様ニナッテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ兵役ノタメニ幾ラモ破産  
スルト云フ者ガ現レテ來ルノデゴザイマス、直接ニ其當時破産セズトモ、  
凡ソ物ト云フモノハ詰リ其時ニ衰フル譯デナクシテ、前ニ衰フル原因ガアッ  
テ衰ヘテ、終ニ倒レテシマウノデゴザイマスカラ、誠ニ見ルニ忍ビナイノデ  
ゴザイマス、實ハ斯ル徵兵令ヲ我國ニ定メタノハ、如何ナル理由デアアルカト

私ハ深ク考ヘテ見マスルト、明治五年頃ハ封建時代ノ腦髓ガ去ラナカッタ所  
 謂武門武士ナル者ノ腦髓カラ割出シテ徵兵令デアルト、私ハ深ク信ズルノデ  
 ゴザイマス、ソレデ武門武士ナル者ノ腦髓ハドウデアアルカト云ヘバ、君カラ  
 家祿ヲ頂戴シテ居テ租稅ハ納メナイデ、武ヲ練リ、文ヲ學ビ、其他ノ遊藝  
 ヲ爲スガ如キコトニ對シテ生活ヲシテ、數代暮ラシテ來タノデ、君ニ事有  
 ルノ際ニハ生命ヲ君ニ奉ルト云フノガ、武士ノ武士タル所以デアッタノデ  
 ゴザイマス、其腦髓ヲ持ッテ來テ、茲ニ國民全般ニ及ボシタ所ノ徵兵令ノ制度  
 アルト思フノデゴザイマス、彼ノ武門武士ナル者ノ兵役ニ服スルト、此一般  
 人民ノ兵役ニ服スルトハ大ニ趣キガ違ッテ居ラウト思フノデゴザイマス、今  
 ノ人民ハ家祿ヲ受ケズシテ租稅ヲ納メテ居ルデゴザイマス、從前ノ武士トハ  
 大ニ異ナッテ居ルデゴザイマス、ソレ故ニ從前ノ武士ノ——封建時代ノ武士  
 ノ腦髓ヨリ割出シテ徵兵令デアリマスカラ、甚ダ不公平千萬デアアル、併シ  
 ナガラ之ヲシテ平等ニ爲サシメヤウト云フコトハ、國情ノ上ニ於テ出來ヌコ  
 トデアゴザイマスカラ抽籤ト云フコトハ已ムヲ得ナイトシテモ、免レマシ  
 タ——抽籤ノ結果免レマシタ所ノ壯丁ニ對シテハ、幾分カ租稅ヲ掛ケテ、負擔  
 セシメテ兵役ニ服シタ者ニ給與スルコトハ今日ノ急務デアアルト、深ク私ハ  
 信ジテ疑ヒマセヌデアゴザイマス、ソレデ斯ノ如ク致シマスレバ貧民ニマデ之  
 ヲ負ハシメルニ至ルデハナイカト云フ疑ヒモアルデアゴザイマスガ、私ノ提出  
 致シマシタ所ノ案ニ據リマスルト、決シテ貧民ニマデ負ハシメルト云フ考デ  
 ナイ、例ヘバ我國ノ一箇年ノ壯丁ハ幾ラアルカト云ヘバ、四十二三万デア  
 イマセウ、其中カラ五万内外ノ兵役ニ服スル者ガアルト假定シマシテモ、三  
 十何万殘ッテ居ル、其中カラ二十五万人ダケ稅金ヲ納メル者トスレバ、四年  
 ノ間ニ百万人デアゴザイマス、其百万人ニ對シテ六圓ノ稅トスレバ六百万圓デ  
 アル、ソレヲ三年間若シクハ二年以上服役シタ者ニ配當スレバ、百圓程ニナ  
 ル、殆ド三百圓ノ負擔ヲ爲シタ者ニ對シテ此百圓内外ノ手當ヲ爲スノハ、實  
 ニ些々タルモノデアアラウト思ヒマス、實ニ兵役ニ服シタ者ハ、三年間入營シ  
 ノミナラズ、其後常備タリ後備タル年限ヲ合セレバ十二年四箇月ノ間兵役ノ  
 義務ニ服シ、若モ國ニ事有ルニ方ッテハ、彈丸雨注ノ間ニ生命ヲ犠牲ニ供シ  
 テ、國家ノためニ働カナケレバナラナイ義務ガアルデアゴザイマス、然ルニ斯  
 ノ如ク困難ナル職務ヲ帶ビタル所ノ者ニシテ、身代ヲ屠ルル如キ者ガアルニ拘  
 ラズ、兵役ヲ免レタ者ハ何等ノ稅ヲモ負擔セヌト云フコトハ天理ノ上カラ論  
 ジマシテモ、人道ノ上カラ論ジマシテモ、決シテアルベカラザルコト、思フノ  
 デゴザイマス、ソレデ我國ノ兵制ハ如何ナル考カラ出來ヌカ、能ク人ノ言フコ  
 トデアアルガ、國家ノためニハ生命ヲ犠牲ニ供サナケレバナラヌ、是ハ國民ノ  
 義務デアアルト云ヒマスガ、國家モ亦個人ノ權利義務即チ國家ノためニハ犠牲  
 ニ供スルモ願ル所デアナイト云フ論者モアルデアゴザイマス、ケレドモ是ハ甚ダ  
 私ハ間違ッテ居ルノデアアラウト思フノデアゴザイマス、實ハ國家ノためニ犠牲ニ  
 供サナケレバナラヌト云フトキハ、是ハ國家ノ大危亂、大禍亂、大騷亂ト云

官報號外 明治三十四年一月三十日 衆議院議事速記錄第四號 所得稅法中改正法律案 第一讀會

フ場合デアッテ、通常ハ國家ト云フモノハ個人ヲ保護スルノモ、國家ノ職務デ  
 アル、國家ハ何者デアアルカ 天皇陛下ノ統治權ヲ總攬シテ居ル所ノ個人ノ集  
 合團體デアアルノデアゴザイマス、個人ノ集合團體デアゴザイマスカラ、個人ヲ保護  
 スルノガ國家ノ義務デアアルノデアゴザイマス、個人ノ集合團體デアゴザイマスカ  
 ラ、個人ヲ保護スルノガ國家ノ義務デアアルノデアゴザイマス、然ルニ兵役ノタ  
 メニ國家ハ其殘レントスル者ヲ救済スルノ法ヲ講ゼヌト云フコトハ、實ニ暴  
 逆無道ノコト、深ク私ハ信ジテ疑ヒマセヌノデアゴザイマス、願ハクハ滿堂ノ  
 諸君、宜シク御贊同アラシコトヲ希望シマス——尙ホ一言申上ゲテ置キマス  
 ガ、理由書中ニ此「天皇陛下ニ使ヘ奉ル」ト云フ「使」ト云フ字ハ「仕」ト云フ  
 字ニ改メテ置キマスカラ左様御了承ヲ願ヒマス  
 ○望月長夫君(百五十四番) 提出者ノ述ベラレタ趣旨ニ依ッテ、其精神ハ頗ル  
 耳ヲ傾ケルニ足ルト信ジマス、併ナガラ愈々之ヲ法律トシテ制定スルト云フ  
 ニ至ッテハ、實ニ重大ナル關係ガアラウト思ヒマス、故ニ矢張議長指名デア  
 九名ノ特別委員ニ付託スルコトガ至當ト思ヒマス、委員說ヲ提出致シマス  
 (贊成々々)ノ聲起ル  
 ○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ異議ガアリマセヌカ  
 (異議ナシ)ノ聲起ル  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ其通ニ決シマス——議事日程第二十五  
 所得稅法中改正法律案、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス木村誓太郎君

第二十五 所得稅法中改正法律案(木村誓太郎君外 第一讀會 二名提出)

所得稅法中左ノ通改正ス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ於テ資産又ハ職業ヲ有シ若  
 ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ム  
 ル義務アルモノトス

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度損金、機械建物償却金  
 賞與金、交際費、保險責任準備金及前年度繰越金ヲ控除シタルモノ  
 ニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル  
 資産又ハ營業ヨリ生スル所得ニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ  
 依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營  
 業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル  
 法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、割賦賞與金、歳費、年  
 金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ山林ハ前年ノ所得ニ依ル  
 田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此法律施行地ニ於テ支拂フ受ケタル公債社債ノ利子アリタルトキハ之ヲ控除ス

第九條ニ左ノ一項ヲ加フ

調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキハ政府之ヲ決定ス

第二十四條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

稅務署ノ管轄區域ニ變更アリタルトキハ調査委員及補員ヲ改選ス

第四十條ニ左ノ一項ヲ加フ

所得金額決定後分家又ハ同居者別居スルモ前項ヲ適用セス

第四十三條ノ第四十三條ノ一トシテ左ノ一條ヲ加フ

第四十三條ノ二 二箇以上ノ稅務署管内ニ於テ所得金額ノ決定ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ一ノ決定ヲ取消コトヲ得

此ノ法律ハ明治三十四年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

〔木村誓太郎君演壇ニ登ル〕

○木村誓太郎君(九十八番) 所得稅改正案ノ理由ヲ簡短ニ說明ヲ致シマスル、風邪ヲ引イテ居リマシテ、甚ダ咽喉ガ苦シウゴザイマスデ、御聽苦シイデゴザイマセウ、本案ノ改正ノ主眼トシマスルノ要點ハ一ツデゴザイマス、其一ツハ法人ノ所得即チ會社銀行ガ決算期ニ至リマシテ、總益金ノ中カラ仕拂フベキ剩餘金交際費、或ハ器械建物償却金、是等ノモノヲ其會社ノ損金トシテ控除スベキモノデアルト云フコトヲ明ニ明文ニ掲ゲマスルコトガ一ツ、モウ一ツハ山林ノ所得ガ現行法テ見マスルト、其年ノ豫算ニ依ッテ所得ヲ算定スルコトニナリテ居リマシタガ、ソレデハ餘程不都合ガアリマシテ詰リ山林ノ所得ト云フモノヲ算定スル時期ガナイコトニナリマスカラ、之ヲ改メマシテ、前年ノ所得ニ依ッテ算定スルコトニ改テシマス、此二點ガ主眼デゴザイマス、其他ニ三四箇條改正ヲシテアリマスケレドモ、是ハ現在ノ法ニ於テ——行ヒツ、アル所ノ法文ニ落チテ居リマスカラ、ソレヲ書現ハスマデニ止マルコトデゴザイマス、法人ノ所得ヲ算定スルニ就キマシテハ、是マデ政府ノ方針ト云フモノモ段々變テ來テ居リマスル、此所得稅法ノ出來マシタ當時、即チ其時分ノ大藏省ノ方針ト云フモノハ、全ク其會社、其銀行ノ定款ノ書方如何ニ依ッテ、賞與金杯ニ稅ヲ課スル課セヌノ區別ヲシテ來タノデゴザイマス、ソレデ現在吾々大藏省ノ方針ニ依ッテ議案ヲ出サレタ、審査會ニ於テノ議案ヲ見テモ、政府ノ方針ハ明カニ其通明文ニ掲ゲテアルコトデゴザイマス、然ルニ三十三年ノ下半季頃ニ至ッテ、全ク其方針ヲ一變シテ定款ノ如何ニ拘ラス、總テ此賞與金、交際費、器械建物償却金ト云フモノハ、是ハ矢張會社ノ益金ノ内カラ——純益金ノ中カラ仕拂フモノデアアルカラシテ、取ルト云フコトノ方針ニ一變シタヤウデゴザイマス、然ルニ其事實ニ

至ッテハ、各稅務署或ハ管理局ノ審査會ニ至リマシテハ區々ニナリテ稅務署ノ取扱方ニ至ッテモナカク一定シテ居ラナイ、或ハ賞與金ヲ取ラズシテ課稅ノ金高ニ組込マシテ、器械建物償却金ダケヲ組込シテ居ル所モアリ、又機械償却金ヲ組込マシテ賞與金ダケヲ組込シテ居ルコトヲ認メテ居ルノデゴザイマス、現在審査會ニ於キマシテモ此事ヲ各會社カラシテ審査ヲ求メテ出テ、大阪ノ管理局部内ニ於ケル審査會、又名古屋管理局ニ於ケル部内ノ審査會ニ於テハ、此賞與金杯ハ取ルベキモノデアナイト云フコトニ決シテ居ルノデゴザイマス、現在ノ稅率ニ依ッテモ總益金ノ中カラシテ總損金ヲ引去ル、即チ總損金ト云フモノニ唯今申ス賞與金等ハ無論含蓄スベキモノト解釋ガ出來ルノデアリマス、然ルニ此改正ノ必要ノ起ルト云フモノハ、近頃橫濱ノ管理局部内カラト、新潟ノ管理局部内カラ行政裁判所へ之ヲ持出シマシテ、行政裁判所デハ是ハ控除スベキモノデアナイ、矢張是モ籠メテ課稅スルト云フコトノ判決例ヲ拵ヘマシタ、斯ノ如キ判決例ガ出來マシタ以上ハ、已ムヲ得ズ茲ニ法律改正ノ必要ヲ認メタノデゴザイマス、モウ一ツハ、山林ノ所得ヲ何故其前年ノ所得ニ改正セネバ不都合ヂヤト云フニ、山林ハ御承知ノ通、伐木スルトキニ始テ所得アル、其伐木スル時期ハ何時デアアルカト云フト、九月十月ノ頃デアアル、然ルニ所得ノ調ハ四月ニ調ベテ、所得ノ審査會ハ大抵六七月頃ニ了ルノデゴザイマス、サウシマスルト、其頃ニハマダ伐木スベキ見積モ立ッテ居ラヌカモ知レマセヌ、縦シ立ッテ居リマシタ所ガ、脫稅ノ意ヲ以テスレバソレヲ申出デヌカト云ッテ答メル理由トハナラナイ、サテ九月十月ニ至ッテ伐木シテ收入ガアツタカラト申シテ、翌年ニ至ッテ最早前年ノ所得デアアルカラト云フノデ書出サネバ、ソレマデノコトデ、到底山林ノ所得ト云フモノニ課稅スル時期ハ全クナイコトニナリマス、故ニ山林ノ所得ト云フモノハ、前年ノ所得ニ依ルト云フコトニ改正セネバナラスト云フ理由ヲ以テ出シタノデゴザイマス、其他ハ一々此處テ說明スルノ必要ハナイト思ヒマスノデ、說明致シマセヌ、若シ御尋ガアレバ御答致シマスガ、是モ法律ノ改正デゴザイマスデ、ドウモ委員ヲ御選ミニナリテ、篤ト御審査ノ上、此案ノ成立ツヤウニ希望致シマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○鈴木惣兵衛君(二百四十二番) 議長指名ノ九名ノ委員ニ御付託ニナルヤウニ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程第二十六議案ノ朗讀ヲ省略致シマス工藤行幹君

第二十六 豫算案ノ款項改正ニ關スル建議案(工藤行幹君提出)

國家ノ歲計豫算ハ費途ヲ明確ニシ併セテ費金流用ノ緊肅ヲ期スルニ在リ然ルニ從來ノ豫算中陸海軍軍事費及裁判所費ノ三款ハ他ノ各款ニ比シ其ノ區域廣濶ニ過キ從テ豫算案及決算ノ調査ニ際シ不便尠ナカラサルノミナラス流用ノ度過大ニ失スルノ弊ヲ免レス故ニ政府ハ三十四年度豫算ヨリ陸海軍軍事費及裁判所費ノ三款ハ少ナクトモ左ノ數款ニ區分シテ提出セラレムコトヲ望ム

一 陸軍省所管軍事費ヲ左ノ數款ニ區分スルコト

- 參謀本部 費
- 教育總監部 費
- 外國駐在員 費
- 高等司令部 費
- 臺灣總督府陸軍幕僚費
- 軍隊 費
- 聯隊區 費
- 警備隊區 費
- 馬匹及事務 費
- 砲兵軍事 費
- 工兵軍事 費
- 陸軍測量 費
- 監督及屬部 費
- 被服廠 費
- 中央糧秣廠 費
- 臺灣補給廠 費
- 鐵道材料廠 費
- 衛生 費
- 監獄 費
- 侍從、東宮、皇族附武官費
- 二 海軍省所管軍事費ヲ左ノ數款ニ區分スルコト
- 軍司令部 費
- 臺灣總督府海軍幕僚費
- 橫須賀鎮守府 費
- 吳鎮守府 費
- 佐世保鎮守府 費
- 艦團部隊 費
- 學校及練習所 費

- 水路部 費
- 採炭所 費
- 造船廠 費
- 造兵廠及火藥製造所 費
- 病院 費
- 軍法會議及監獄費
- 帝室及元帥府附武官費
- 諸會議及造船造兵監督費
- 三 司法省所管裁判所費ヲ左ノ數款ニ區分スルコト
- 大審院 費
- 控訴院 費
- 地方裁判所 費
- 區裁判所 費
- 登記所 費

右建議ス

(工藤行幹君演壇ニ登ル)

○工藤行幹君(六十八番) 此案ハ諸君ノ御承知ノ通、本員カラ昨年ノ議會ニ提出シマシタ所ガ、本院ノ採用スル所トナッテ、即チ委員ニ付託セラレタノデゴザイマス、委員會ガ結了シナイ中ニモウ閉會致シマシタカラ、ソレ切リ御流レニナッタ案デゴザイマスカラ、今日長ク説明スル必要ハナイノデゴザイマス、唯簡短ニ昨年ノ委員會ノ模様ヲ極簡短ニ御話シテ置キタイと思フ、其以前ニ間違ガゴザイマスカラ御斷ヲ致シマスガ「二十四年度」ト云フノハ「三十五年度」ノ誤リデゴザイマスカラ、是ハ訂正致シテ置キマス、此案ノ精神ハ、畢竟此會計法ニ基イテ成ルタケ項ノ流用ヲ多クシナイデ、節度アル會計ニシタイト云フノデゴザイマス、御承知ノ通此陸海軍及司法省ト云フモノハ、他ノ省ニ比シテ無暗ニ款項ヲ少クシテ流用ヲ澤山ニシテ居ルノデゴザイマス、是ハ會計法ノ規則ニ背クト云フコトノ精神ハ昨年述ベマシタカラ、今ハ茲ニ喋々申サヌノデゴザイマス、唯昨年ノ委員會ニ於テ陸軍省ノ委員ノ言フニハ、是ハ追テ斯クセネバナラヌケレドモ、今少シ困ルト云フコトヲ云フ、併シ何故困ルカト云フコトハ一向分ラナイ、何故ナレバ陸軍省デハ内部ニ於テ此項目ヲ分ケテ居ッテ、サウシテ自分ノ下ノ方ニ向イテハ其豫算ノ實行ヲ促シテ居ルノデゴザイマス、而シテ議會ノ方ニ向イテハ此案ヲドント合併シテ了ッテ、軍事費ト云フコトヲ一ツニシテ居ルノデゴザイマス、年末ニナルト年度ノ初メニチャント區別ヲ明ニシテ置イテ、參謀本部ハ參謀本部ト云フヤウニ分ケテ置イテ、サウシテ年末ニナルトソレヲ悉ク流用シテシマフノデゴザイマス、凡ソ此金ト云フモノハ詰リ其費途ニシテ見テハ、大キナ流用ヲスルト云フコトハ便利デアアルコトハ明デアアルケレドモ、此會計法ニ依ッテ成ルタケ、費目ヲ明ニシテ、紊亂セシメナイト云フノガ會計法ノ精神デアアルノデ、

獨リ此海陸軍司法省ハ大キナ流用ヲスルト云フノハ如何ニモ不當ナコトデア  
ル、而シテ陸軍ノ政府委員ノ答フル所デハ、是デモ遣リ兼ネルコトガ一ツア  
ル、何故遣リ兼ネルカト云フト、陸軍省ノ遣リ方ト云フモノハ、或ハ參謀本  
部或ハ教育部トカ云フモノ、長官ヲ任ズルノハ、陛下ノ思召デ遣ルノデア  
カラシテ、或ル部ノ方ニハ上級ノ將校ガ多ク往キ或部ノ方ニハ下級ノモノガ  
多ク往クト云フヤウナコトニナツテ居ル、ソコデ任命ハ、陛下ノ思召ニ依ッテ  
ヤルニ附イテ、豫メ俸給ハ教育部ハドレダケ、參謀本部ハドレダケト云フコ  
トニナルト、此上級下級ノ將校ノ給料ノ支給方ニ於テ、大ニ差支ヘルコトガ  
アルカラ出來ヌト云フコトヲ答ヘテアル、是ハ誠ニ私ガ怪シカラヌコトデア  
ル、此官吏ヲ任免スルニハ固ヨリ皆是ハ、行政部内即チ、陛下ノ思召ニ依ッテ  
ヤルノデ、何レノ省何レノ處デモ矢張其文官ニモ上級下級ト云フモノガアル  
ノデゴザイマスカラ、ソレヲ楯ニ取ルト云フ譯デアラナラバ、内務省ノ如キ  
モノデモ、皆此地方官ノ費用マデモ、打ッテ一丸トシテシマハナケレバナラヌ  
ト云フヤウナ結果ニナルノデゴザイマス、之ヲ要スルニ始カラ此二十三年以  
來、此ノ如ク海陸軍ノ款項ノ分ケ方ガ極簡略ニナツテ居ルト云フモノハ、海陸  
軍ノ勢力ガ強クシテ、大藏大臣ガ之ヲ節制スルコトガ出來ナカッタ結果デア  
ラウト思フノデゴザイマス、又司法省ノ一ツヲ以テ言ウテ見テモ、大審院ノ  
判事モ、地方裁判所ノ判事モ、區裁判所ノ判事モ、此給料ヲ悉ク流用スルコ  
トヲ得ルト云フコトハ、餘リニ流用ノ途ガ廣過ルノデアアル、私共ガ思フニハ  
サウデナイ、大審院ハ大審院中ノ給料中デ流用スル分ニハ宜シク、或ハ地方  
裁判所ハ地方裁判所中デ流用スル分ハ宜シイケレドモ、上ノ方ハ大審院ヨリ  
下ハ區裁判所ノ書記ノ給料ノ如キニ至ルマデモ、悉ク之ヲ流用スルト云フコ  
トハ、如何ニモ外ニ不相當ナル制限ガ廣クナツテ居ルノデゴザイマス、而シテ  
之ヲ節制セヌガタメニ、何分海陸軍ナドハ大キナ金ヲ——常ニ過大ナ金ヲ使ッ  
テ居ルニ、之ヲ此儘ニシテ制セヌト云フト、流用ノ途ガ誠ニ濶トシテ廣クナツ  
テ居ルカラ、豫算ノ調査上、或ハ此決算ノ調査上ニ於テモ、大ニ差岡ガアル  
コトデゴザイマスルカラ、斯ク凡ソ私ノ見ル所デハ、此ノ如ク修正シ——大  
藏大臣ハ以來之ヲ斯ノ如ク修正スルコトニシタイト思フ、併シ必ズ私ノ此條  
項ノ如キハ是非此通デナクテハ、是マデノ如クニ唯軍事費ト云フコトデ、其軍  
事ノ費中ニハ教育費モ這入ッテ居リ、又陸軍ノ方ノ懲罰スル集治監ノ如キモ這  
入ッテ居ル、總テノモノガ這入ッテ居ルト云フヤウナコトデハ、ドウシテモ調  
査ガ仕惡クイノデアアル、故ニ概略斯ノ如ク別ケタイト云フノデゴザイマス、  
然ルニ是ハ建議案デゴザイマスカラ、委員會ニ掛ケズトモ直ニ議決シタイト  
云フ考ヘデハゴザイマスケレドモ、ドウモ此政府委員モ一向今日ハ茲ニ見エ  
ナイヤウデゴザイマスル、又十分此政府委員ノモウ少シ是ニ不同意スル理由  
ヲ問ヒ、別シテ此大藏大臣ノ職責トシテ、此二省ニ限ッテ斯ノ如ク廣クシテ居  
ルト云フコトニ附イテハ、委シク説明ヲ求メタ上ニ、更ニ諸君等ニ報道シテ  
決スル所ガアッタナラバ、猶更満足ダラウト思ヒマスカラ、仰ギ願ハクハ是

モ矢張委員ニ付託ニナリマシテ、委員ノ報告ノ上デ決議ナランコトヲ希望ス  
ルモノデゴザイマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ〕  
○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、報告ガアリマス  
〔書記朗讀〕

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
未成年者飲酒禁止法案

提出者 根 本 正君 大瀧 傳十郎君 西原 清東君  
堀 尾 茂 助君 恆松 隆慶君 野間 豊五郎君  
藤 金 作君

○議長(片岡健吉君) 今日ノ所デハ本會ヲ開クダケノ議案ガアリマセヌカ  
ラ、次ニ會議ヲ開ク日限ト、其議事日程ハ公報ヲ以テ御通知ヲスルコトニ致  
シマス、今日決議ニナリマシタ諸議案ニ對シテ議長ガ指名ヲスベキ委員ハ、  
是モ公報ヲ以テ諸君ニ御報告スルコトニ致シマス、今日ハ是ニテ散會ヲ致シ  
マス

午後三時十五分散會